

教養教育について

注 意

1. 教養教育科目の大部分は東広島キャンパスで開講されますが、霞キャンパスや東千田キャンパスで開講される授業科目もあります（p. 教養27～p. 教養36参照）。履修手続等はどこのキャンパスで開講されるか注意して行ってください。
2. 授業に関する連絡事項、時間割変更、休講・補講・教室変更、期末試験情報等の講義情報は「学生情報の森 もみじ」で通知します。「学生情報の森 もみじ」は学外者も閲覧可能な「もみじ Top」と、ID とパスワードを使って利用する「My もみじ」で構成されています。確認を怠ったために、思いもよらない不利益を被る場合がありますので、**一日に一度は必ず両方の「もみじ」を確認してください。**
3. 記載事項等に不明な点や疑問な点があれば、この学生便覧を持参のうえ、直接関係窓口で確認してください。

TOEFL 及び TOEIC はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。この印刷物は ETS の検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

目 次

I. 教養教育の理念と目的	教養 2
II. 用語解説と一般的な履修上の注意事項	教養 4
III. 授業科目の履修	教養 6
1. 教養ゼミ	教養 6
2. 平和科目	教養 7
3. パッケージ別科目	教養 8
4. 外国語科目	教養12
(1) 英 語	教養12
(2) 初修外国語	教養14
5. 情報科目	教養16
6. 領域科目	教養18
7. 健康スポーツ科目	教養20
8. 基盤科目	教養21
IV. 履修に関する手続・相談等	教養22
V. 試験及び成績	教養25
VI. 平成26年度教養教育開設授業科目一覧	教養27
1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目	教養27
(1) 東広島キャンパス開講分	教養27
(2) 霞キャンパス開講分	教養34
(3) 東千田キャンパス開講分	教養34
(4) 双方向授業（東広島ー霞キャンパス間）	教養34
(5) 双方向授業（東広島ー東千田キャンパス間）	教養34
2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目	教養35
VII. 教養教育関係規則等	教養37
1. 広島大学教養教育科目履修規則	教養37
2. 外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて	教養40
VIII. 配置図等	教養42
1. 東広島キャンパス配置図	教養42
2. 総合科学部付近配置図	教養43
3. 総合科学部講義室配置図	教養44
4. 教養教育に関する掲示板位置図（東広島キャンパス）	教養48
5. 東千田キャンパス配置図	教養49
6. 各学部学生支援グループ等の連絡先・E-mail アドレス	教養51

I. 教養教育の理念と目的

教養教育の理念

広島大学は、国際平和文化都市広島の地域性と国際性を重んずる建学の精神に則り、また我が国有数の規模をもつ総合大学として社会の要請に応えるため、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養的教育を行い、専門的知識・技術の習得とあいまって、人間の尊厳と人類愛に基づく国際理解と世界平和への寄与を通して、国際社会に貢献する人材を育成することを目指す。

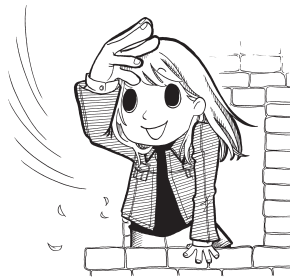
教養教育の目的

教養教育の目的は、幅広い教養に支えられた豊かな人間性を培うことにあります。そのためには、いわゆる専門に直結する基礎知識・技術を習得するだけでなく、その枠を超えて広く学問への関心を高め、ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力を養うことが必要となります。ぜひ、教養教育で得たものを、みなさんの人間としての成長と人類の未来に活かしてください。

【教養教育の学習イメージ】

視野をひろげる、視点をかえる（学際・総合）

- 豊かな感受性・柔軟な発想力を培う。
- 平和について様々な観点から考え、理解を深める。
- 異分野を知り、異分野相互の関係を知る。



教養コア科目

自己を発見し、成長する。

学びの土台をつくる（基礎力）

- 基礎知識を獲得する。
- 語学力を身に付ける。
- 情報活用能力を習得する。
- 体力・健康づくりの方法を習得する。



基盤科目
共通科目

教養教育の科目区分

教養教育の理念と目的を達成するため、「教養コア科目」「共通科目」「基盤科目」の3つの大科目区分から学びます。さらに、教養コア科目と共通科目は複数の小科目区分から構成されています。

【科目区分構成】

教養コア科目

{ 教養ゼミ
 平和科目
 パッケージ別科目

共通科目

{ 外国語科目（英語・初修外国語）
 情報科目
 領域科目
 健康スポーツ科目

基盤科目

【各科目区分の教育目標】

科目区分		教 育 目 標
教養コア科目	教養ゼミ	自主的な学習によって支えられる大学教育へのオリエンテーション機能を果たすため、入学後の早い段階で知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てることを目標にしています。
	平和科目	戦争・紛争、核廃絶、貧困、飢餓、人口増加、環境、教育、文化等の様々な観点から平和について考え、理解を深めることを目標にしています。
	パッケージ別科目	複数の授業を有機的に関連付けながら知識の持つ真の意味や広がりを実感し、人類や社会が抱える歴史的・現代的な課題を理解することを目標にしています。
共通科目	外国語科目 ・英語 ・初修外国語	グローバル化時代に対応するため、様々な外国語で情報を受信し、発信できるコミュニケーション能力を養成し、知識・技能を習得するとともに、異なる言語や文化に対する理解を深めることを目標にしています。
	情報科目	問題解決に必要な情報処理を適切に行うための基礎知識や技術の習得、及びネットワーク上のモラルや情報化社会における問題点に関する基礎知識の習得を目標にしています。
	領域科目	人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたのか、その根本にある考え方は何であるのかについて、文化的・社会的な視点等を踏まえながら、多様な学問領域の科目を通じて学ぶことを目標にしています。
	健康スポーツ科目	体力・健康づくりのための科学的理論を習得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性等の社会的スキルを習得することを目標にしています。
基盤科目		専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として、それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により、基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を習得することを目標にしています。

Ⅱ. 用語解説と一般的な履修上の注意事項

1. 学期区分とセメスターについて

広島大学では1年間に前期（4月1日から9月30日まで）と後期（10月1日から3月31日まで）の2学期に分け、学期ごとに授業科目を選択します。なお、一般的に、1年次前期を1期（1セメスター）、後期を2期（2セメスター）、2年次前期を3期（3セメスター）、後期を4期（4セメスター）・・・というように呼んでいます。

2. 授業科目と単位について

(1) 授業科目

本年度の教養教育の開設授業科目は「平成26年度教養教育開設授業科目一覧」（p. 教養27～p. 教養36）に記載しています。なお、法学部・経済学部夜間主コースの学生は、昼間授業時間帯に開設される授業科目も、開講キャンパスを問わず定められた単位数まで履修することができます。また、夜間授業時間帯に開設される授業科目は、許可された特定の学部の学生しか履修することができません。

(2) 単位と単位の修得

卒業するためには、所属学部が履修基準表などで定めている一定の「単位」を修得する必要があります。

単位は、各授業科目において実施する試験に合格した場合などに修得することができます。各授業科目で修得できる単位数は、予習・復習の時間も考慮して、別に定める算定基準により決定されます。詳細は、「平成26年度教養教育開設授業科目一覧」（p. 教養27～p. 教養36）の「開設単位数」欄を参照してください。

【修得できる単位数と学修時間（例）】

授業の方法（単位数）	学修時間	学修時間の内訳
講義（2単位）	90時間	（授業2時間＋予習・復習4時間）×15回
演習・実習（1単位）	45時間	（授業2時間＋予習・復習1時間）×15回
実験（1単位）	45時間	（授業3時間＋予習・復習0時間）×15回

※法令の定めるところにより、いずれの授業科目も1単位の修得に45時間の学修が必要となります。

※一部の授業科目については、算定基準が異なる場合があります。詳しくは広島大学教養教育科目履修規則（p. 教養37～p. 教養39）を参照してください。

なお、原則として**同一授業科目を重複履修してもその単位は認められません**。ただし、以下の授業科目については、繰り返し履修し、単位を修得することができます。

【重複して履修可能で単位が認められる科目】

外国語科目（コミュニケーション基礎，コミュニケーションⅢを除く。）、領域科目
外国語領域の「コミュニケーション上級英語」，「アドバンスト・フランス語Ⅰ」，「ア

ドバンスト・フランス語Ⅱ」,「アドバンスト中国語Ⅰ」,「アドバンスト中国語Ⅱ」,「アドバンスト韓国語Ⅰ」,「アドバンスト韓国語Ⅱ」,領域科目複合領域の「名著との対話」,領域科目キャリア教育領域の「実践フロンランナープログラム」,健康スポーツ科目の「スポーツ実習A」,「スポーツ実習B」,基盤科目の「化学英語演習」

3. その他

(1) 開設年次

授業科目ごとに設定される対象学年のことを、「開設年次」といいます。これは、学生にとって履修年次を意味します。例えば、開設年次「2」の授業科目の場合、3セメスターまたは4セメスターから履修することができます。

各授業科目により開設年次・開講学期が異なりますので、「平成26年度教養教育開設授業科目一覧」(p.教養27～p.教養36)、毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」または「My もみじ」などで確認してください。

(2) 指定授業時間

各学部,学科・類(系),コース・専攻,プログラム(以下「各学部等」といいます。)が履修基準表などで定めている必修科目,選択必修科目,履修することが望ましいとする一部の科目は、毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」に示されています。これらの科目を履修する場合は、指定された曜日・時限に履修してください。

同一の指定授業科目を複数の教員が担当する場合は、クラス分け決定通知書(1年次前期のみ配付),「My もみじ」,掲示などにより担当教員を通知します。

(3) 修学上特別な配慮を必要とする学生の履修

修学上特別な配慮を必要とする学生は、総合科学部事務棟1階の教養教育本部支援グループまたは所属学部の学生支援グループ(以下「学生支援グループ」といいます。)で履修の仕方について相談してください。

(4) 2年次生以降の履修上の注意点

次年度以降において、授業科目名などが変更されることがあるので、「もみじ Top」の中にある教養教育ホームページ(<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/>)などで「教養教育科目新旧対応表」を確認してください。

Ⅲ. 授業科目の履修

1. 教養ゼミ

1) 授業の目標

自主的な学習によって支えられる大学教育へのオリエンテーション機能を果たすため、入学後の早い段階で、知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てることを目標にしています。また、大学での学習の入り口として、学生相互、及び学生と教員のコミュニケーションを図り、学習集団の形成をスムーズにする役割も担っています。

2) 授業の内容

高等学校までの受身の講義ではなく、大学生らしく自主的に学習し、積極的に発言していく態度を育む科目です。自主学習の姿勢、討論への参加、質疑応答などが評価されます。

1 セメスターで開設し、**全学生2単位必修**です。原則として10名程度の少人数クラスで行いますが、多人数クラスで行う学部もあります。

3) 履修上の注意事項

大学生としての自覚を持ち、自学自習とそこでの十分な思考と理解をもって教養ゼミに臨み、積極的に授業に参加してください。

授業の詳細については所属学部の指示に従ってください。

2. 平和科目

1) 授業の目標

戦争・紛争，核廃絶，貧困，飢餓，人口増加，環境，教育，文化等の様々な観点から平和について考え，理解を深めることを目標にしています。

＊平和科目群設置の目的：広島大学の理念5原則に「平和を希求する精神」が掲げられているように，学生には平和に対する意識の涵養が求められている。平和については，戦争の悲惨さを直視し，核廃絶を含む軍縮を展望する視点を育む必要があることはいうまでもない。しかし，それ以外にも「貧困」，「飢餓」，「人口増加」，「環境」，「教育」，「文化」など多様な観点から広く平和を捉え直していくことも必要である。このような観点から「平和を考える」場を提供するために平和科目群を提示する。

2) 授業の内容

それぞれの教員が，専門とする学問分野や視点から講義し，平和について考える場を提供します。すべての科目には，平和に関するモニュメントの見学とそれに関するレポートの提出が義務付けられています。

東広島キャンパスでの授業は主として，月曜日の1・2時限に開講されます。ただし，前期の「国際関係論」は水曜日9・10時限に，後期の「＊戦争と平和に関する史的研究【教】」は水曜日5・6時限に開講されます。

東千田キャンパスで開講される授業の時間帯については，「教養教育科目授業時間割」または「My もみじ」などで確認してください。

3) 履修上の注意事項

- ① すべての学部（法学部・経済学部夜間主コースを除く）で1・2セメスターの月曜日1・2時限を指定時間帯にしています。なお，その他の時間帯に開講している科目もあります。
- ② 修得可能な単位数は2単位（1科目）までです。

平和科目の授業科目一覧

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| ・ 広島と平和 | ・ グローバル・パートナーシップ学 |
| ・ 平和を考える | ・ ヒロシマ学 |
| ・ ヒロシマ発平和学（東千田キャンパス開講） | ・ 戦争と平和に関する総合的考察 |
| ・ 平和と人間A－環境と生物の未来へー | ・ ジブンから始まる世界平和 |
| ・ 平和と人間B－人間と文化の未来へー | ・ 飢餓・貧困・環境問題からみた平和学 |
| ・ 平和と人間C－広島で学ぶ（原爆とは何だったか）－ | ・ 環境と平和 |
| ・ 平和と人間D－広島から未来に向けて－（東千田キャンパス開講） | ・ 国際関係論 |
| ・ 平和と人権－グローバル化とジェンダー視点 | ・ ＊戦争と平和に関する史的研究【教】 |
| ・ 原爆体験と表象／文学 | ・ 医学からみた戦争と平和 |
| | ・ 環境と軍事 |
| | ・ 国際紛争論－人間の視点から－ |

・「＊」は【 】内の略号で表された学部の専門教育科目として履修することができる科目を示します。ただし，所属学部が定める履修基準表などにより，開講学部の専門教育科目として履修出来ない，又は履修に制限がある場合があります。なお，【 】内の教は教育学部を表します。また，単位修得後は科目区分を変更できないので，履修登録の際は十分注意してください。

3. パッケージ別科目

1) パッケージ別科目の目標

複数の授業を有機的に関連付けながら知識の持つ真の意味や広がりを実感し、人類や社会が抱える歴史的・現代的な課題を理解することを目標にしています。

2) パッケージ別科目の仕組み

パッケージ別科目では5つの「テーマ」が設けられています。その下に、学問的に異なる視点を持った複数の授業科目が「パッケージ」されています。一つのテーマを複数の視点から考えることで、「多角的なものの見方」が身に付く仕組みになっています。履修上のステップは、次のようになります。

1. パッケージの選択：自分が関心を持つ「テーマ」を一つ選ぶ
2. 授業科目の選択：そのパッケージ内で複数の授業を履修する（全学生6単位選択必修。夜間主コースを除く。）

各テーマの概要と授業科目

テーマ	概要・キーワード	授業科目名
社会のしくみと科学 (第1パッケージ)	日常生活の中で「社会」を意識することはあまり多くないかもしれませんが、私たちを取り巻く政治経済、法や制度、教育システム、家族、社会習慣などは、私たち自身がつくりだしている様々な「社会のしくみ」です。それらは、ひとりひとりの些細な行動や思考にまで影響を与えています。また現代社会では、科学研究および種々の産業や技術の発展にともない、「科学」の営みと社会のしくみが深く関連し、私たちの生活様式を大きく変容させています。これら社会のしくみと科学の在り方を理解し、そこにある様々な問題に対処するためには、社会科学のみならず、人文・自然科学も合わせた総合的な視野が求められるでしょう。 キーワード：社会、社会のしくみ、科学、産業、科学・技術、社会構造、市民生活、政治経済、制度、教育、家族、地域社会、習慣、心性、国家など	生活を取りまく家族・地域・産業 地域の分析 教育と制度 市民生活における規範のゆらぎ 心と社会 生活から見た日本の近代 アジアの社会史 ヨーロッパ近代と市民社会 核時代の科学と社会 自動車産業と日本経済 産業と技術 社会のなかの科学 市民生活と物理 環境と化学
知の営みを問い直す (第2パッケージ)	「知」は多様な側面を持っています。それは宗教・思想・芸術・科学などの諸領域の中で、それぞれ独自かつ豊かなかたちで展開されている人間の営みです。そこには、「知」そのものに反省の目を向け、その歴史的な成り立ちや変容、獲得・形成のメカニズムや構造、あるいは知の根源や創出可能性について問うことも含まれています。さまざまな「知」が複雑に絡み合う現代社会において、こうした「知」の営みを「問い直す」ことはきわめて重要であり、魅力あるものだと言えるでしょう。本パッケージでは、論理・認知・感性・教育・コミュニケーション・情報（処理）・人工知能・統計・脳・女性・幸福感といった、多様な観点からこの「問い直し」の作業にアプローチしていきます。 キーワード：学習、感性、教育、芸術、コミュニケーション、コンピュータ、思想、宗教、情報、幸せ、オリエン特、数学、知識、知性、人工知能、直感（閃き）、哲学、統計、人間、認知、風景、文学、文明、民主主義、歴史 など	コミュニケーションの哲学 教育と人間 人間・歴史・風景の感性哲学 数学の世界 知能とコンピュータ 東洋の思想 統計学で考える 認知と学習 脳と知 物理と情報 大学と社会 美術と人間 大学と学生 「所有感」と「人の幸せ」を考える

テーマ	概要・キーワード	授業科目名
生命・人間への接近 (第3パッケージ)	生命とは何か。また生命の中で、心という独自の特性を持っている人間とは何か。さらに「いのち」という言葉で示されるものの重み(価値)を、どのように考えていけばよいのか。現代の自然科学は、生命・人間に関して、極めて深く多様な知見を獲得しつつあります。同時に、いのちや人間に対する尊重の仕方、あるいは私たち自身に対する理解の仕方やアイデンティティーについて、人文・社会科学は様々な問いを見出し、様々な考察を展開しています。こうした「生命・人間」への接近と、そこから生じてくる数多くの問題は、現代における一つの包括的なテーマです。それを今一度、多角的な視野から考え直します。 キーワード：いのち、生命、遺伝子、脳、生物、人間、身体、生死、心、アイデンティティー、実存、尊厳、宗教、価値、健康、スポーツなど	遺伝子の世界 実存の探究 社会的なもの人間 社会福祉と貧困 心と適応 人の生と死をめぐる法と社会 人間と健康 生物学からみたストレス 聖書の人間理解 適応の生理 日本文学からみた人間性 脳と行動 脳のはたらき いのちを支える酵素
文化の交流と多様性 (第4パッケージ)	世界には、多様・多彩な文化が展開されています。各地の文化を担う人々が相互に交流し、また対立や争いを繰り返しながら、今日の世界は形成されてきました。国際化やグローバリズムが進展する現代にあって、諸々の文化を理解し、その「異なり」を相互に認め合うこと、また自らの文化を相対化することは、魅力ある学びであり、かつ重要な課題となっています。そこでは、文化の背景にある歴史的経緯や経済的利害、また文化を育んだ自然・風土にも目を向けることが必要でしょう。このパッケージでは、こうした「文化」の交流と多様性について、人文・社会・自然に関わる総合科学的な視点から光を当てます。 キーワード：文化の多様性、異文化交流、異文化の理解、文化摩擦、紛争、近代化、アジアの中の日本、国際化、グローバリズム、芸術、自然・風土、資源 など	アジアの近現代 ヨーロッパ文学の世界 英語圏の文学と社会 岩石・資源と人間 自然環境と地図 国際社会と法 世界の中の日本語・日本文化 中国文学の世界 中東・イスラームの世界 日本の歴史と文化 比較芸術文化 文化と自然 文化人類学の世界 翻訳の文学
環境・自然との共生 (第5パッケージ)	私たちが生きていく限り、環境や自然との関わりを無視することはできません。地球温暖化や生物多様性をはじめとした環境問題への関心、また里山・里海といった身近な自然への関心が高まっています。「環境・自然」は極めて多様で多層的なものです。それらと私たちの「関わり」も考え合わせると、いっそう複雑な様相をもつことになります。「環境の世紀」ともよばれる現代を理解するためには、自然科学ばかりではなく、思想や歴史などの人文科学や、政治や経済などの社会科学も総合した多面的な観点から、「環境・自然」を捉えること、またそれと私たちとの「関わり・共生」を考え直すことが求められています。このことは現代の最も重要な緊急な課題の一つです。 キーワード：地球環境、エネルギー、物質循環、生物、人間、多様性、森林、微生物、気候、いのち、食料生産、科学技術、価値観、自然の思想、環境と市民、環境をめぐる政治と経済、時間スケールと空間スケール など	地球の姿と歴史 物質循環と地球環境 気候と生物 森林と人間 微生物の世界 生物生産と自然との関わり 自然災害と防災 自然と宗教 芸術と自然 環境観と環境問題 環境と政治 グローバル経済と環境権 経済発展と環境 ¹⁾ 自然理解の進化と環境

・ 個々の授業科目の内容を知りたい時は、「My もみじ」のシラバス、または冊子「教養教育科目授業時間割」の授業概要一覧(シラバス抜粋)を参照してください。

広島大学 HPー学内ポータルー学生情報の森 もみじーMy もみじへログイン
<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/index.shtml>

・ ¹⁾ は平成26年度は開講しない授業科目であることを示します。

3) 履修上の注意事項

① パッケージ内の授業科目の選択

1. 4月4日(金)に各学部の教養教育ガイダンスで配付されるパッケージ別科目選択希望届に、希望するパッケージを記入し、4月7日(月)12時までに学部ごとに指定された場所に提出してください。決定されたパッケージは、4月8日(火)午後以降に、所属学部の掲示板や「My もみじ」で確認してください。

ただし、工学部第一類については3セメスターからパッケージ別科目を履修するため、2年次の4月にパッケージを決定します。

2. 決定された「パッケージ」内の授業科目から合計6単位(3科目)を履修します。個々の授業科目の詳細は、「My もみじ」のシラバスで確認できます。
3. 決定された「パッケージ」以外の「パッケージ」の授業科目は履修できません。
4. 第1希望の「パッケージ」にならず、第2希望以下に振り分けられた学生には、一定期限内に限り、割り当てられた「パッケージ」から他の「パッケージ」への変更を認めています。ただし、変更が認められる「パッケージ」は、受講者数に余裕のあるものに限られます。詳しい手続きは所属学部の掲示板や「My もみじ」で確認してください。
5. 各学部が指定したセメスターより早いセメスターで、パッケージ別科目の授業科目を履修することはできません。また、学部ごとに指定された曜日・時限から選択して履修してください。(下記参照)

なお、3セメスター(総合科学部・理学部の学生は4セメスター、工学部第一類の学生は5セメスター)からは、どの授業時間帯のパッケージ別科目も履修することが可能となります。

各学部の授業時間割

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">a. 教育学部・工学部第二類・第三類・第四類(1・2セメスター)
火曜日1・2時限, 金曜日5・6時限b. 文学部, 法学部, 経済学部, 医学部, 歯学部, 薬学部, 生物生産学部
(1・2セメスター)
火曜日3・4時限, 金曜日7・8時限c. 総合科学部(2・3セメスター)
火曜日1・2時限, 金曜日5・6時限d. 理学部(2・3セメスター)
火曜日3・4時限, 金曜日7・8時限e. 工学部第一類(3・4セメスター)
火曜日1・2時限, 金曜日5・6時限 |
|---|

② 法学部・経済学部夜間主コースの学生への注意

東千田キャンパスではパッケージ別科目が開講されません。他キャンパスでパッケージ別科目を履修することはできますが、修得した単位の取扱いは所属学部によって異なります。東千田地区学生支援グループで確認してください。

4. 外国語科目

授業の目標

グローバル化時代に対応するため、様々な外国語で情報を受信し、発信できるコミュニケーション能力を養成し、知識・技能を習得するとともに、異なる言語や文化に対する理解を深めることを目標にしています。

(1) 英 語

1) 授業の内容

授業は原則として習熟度別のクラス編成になっています。

① コミュニケーション基礎

WBT (Web Based Training) による自学自習により、英語での日常生活に必要な語彙や文法 (TOEIC テスト600点相当) を身に付けます。

a. コミュニケーション基礎Ⅰ (原則として1セメスターに開講)

b. コミュニケーション基礎Ⅱ (原則として2セメスターに開講)

② コミュニケーションⅠ・Ⅱ

a. コミュニケーションⅠA, コミュニケーションⅠB

(原則として1セメスターに開講)

ⅠAでは「話す」、ⅠBでは「読む」を中心とした基礎的運用能力を養います。

b. コミュニケーションⅡA, コミュニケーションⅡB

(原則として2セメスターに開講)

ⅡAでは「書く」、ⅡBでは「聴く」を中心とした基礎的運用能力を養います。

③ コミュニケーションⅢ

a. コミュニケーションⅢA, コミュニケーションⅢB (3・4セメスターに開講)

ⅢAでは発表技能、ⅢBでは理解能力に重点を置き、コミュニケーションⅠ・Ⅱで身に付けた基礎的運用能力をさらに発展させます。

b. コミュニケーションⅢC (3・4セメスターに開講)

特定の目的に応じた英語の技能をさらに発展させます。

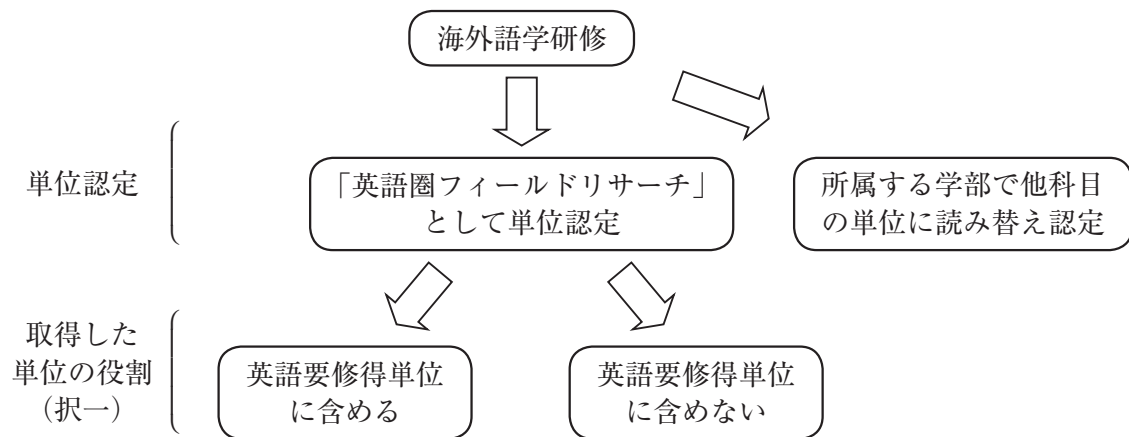
④ 英語圏フィールドリサーチ (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/engfr/>)

英語圏の大学への海外語学研修に参加し、そこでの実生活を通して、英語や英語圏文化を体験的に学び、これを単位として認定するものです。原則として研修先での30時間の研修をもって1単位 (上限4単位) とし、研修先の評価に基づいて単位が認定されます。学年に関係なく履修できます。

海外語学研修をコミュニケーション基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業科目の単位として認定する学部もあります。所属学部の学生支援グループなどで確認してください。なお、一度認定された授業科目名と成績評価の変更は認められません。

また、研修の案内と履修手続方法については上記 URL のページをご覧ください。

【海外語学研修の単位認定の流れ】



※ガイダンス等で指示される所定の手続きを必ず行ってください。

⑤ マルチメディア英語演習 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/mmeng/>)

コンピュータを利用し、速読訓練や聴解訓練、語彙・文法学習など特定のテーマにそって自学自習し、30時間分の学修を1単位として上限6単位まで単位が認定されます。単位の認定は、期末試験により行います。

履修手続の方法などの詳細は、上記 URL のページ及びシラバスをご覧ください。

2) 履修上の注意事項

① 英語の履修基準

所属学部が定める履修基準表などで、必修単位数と履修科目を確認してください。

また、各学部等によっては、「英語圏フィールドリサーチ」と「マルチメディア英語演習」の単位を卒業に必要な英語の単位数（要修得単位数）などに算入することができます。詳しくは、所属学部が定める履修基準表などを確認してください。

② 正規の授業科目以外での単位の認定

TOEIC(R), TOEFL(R), 英検などの外国語技能検定試験で一定の成績以上に達している場合は、別に定める基準により単位が認定されます。(p. 教養40～p. 教養41「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照してください。) また、放送大学を利用した単位の認定も可能ですが、各学部等により取扱いが異なるため所属学部の学生支援グループで確認してください。

(2) 初修外国語

「初修外国語」では7つの言語－フランス語、ドイツ語、中国語、アラビア語、韓国語、スペイン語、ロシア語－が学べます。これらの7つの言語は近代・現代文明の形成と切り離すことができない世界の主要な言語と、日本と地理的に近いアジアの言語からなります。

1) 授業の内容

① 授業科目の種類

a. ベーシック外国語Ⅰ（1セメスターに開講、週2回）

発音・表記の基礎、簡単な文法・文型、簡単な挨拶程度の会話能力の習得を目標としています。

b. ベーシック外国語Ⅱ（2セメスターに開講、週2回）

ベーシック外国語Ⅰに引き続き、基礎的な文型・文法の習得を目指すとともに、視聴覚教材などを活用して、初歩的な表現能力の基礎、基礎会話レベルのコミュニケーション能力の習得を目標としています。

c. 初修外国語をさらに深く学びたい場合は、領域科目の「インテンシブ外国語」などを履修することができます。

◎ 1・2セメスター開講のもの

インテンシブ外国語ⅠA・ⅠB（1セメスターに開講、週1回ずつ）

インテンシブ外国語ⅡA・ⅡB（2セメスターに開講、週1回ずつ）

週2回のインテンシブ外国語は原則としてネイティブスピーカーが担当します。これを、週2回のベーシック外国語と有機的に連動させ、あわせて週4回の集中的な学習を行うことにより、「話す」「聞く」「読む」「書く」の実用的な4技能の習得を目標としています。インテンシブ外国語は、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語で開講しています。学部によっては、時間割の都合上、履修できないことがあるので注意してください。

週4回でまとまりのある授業となっていますので、集中的に実践的な外国語能力が身に付きますが、それだけに受講生には積極的な参加が求められます。

○インテンシブ外国語の履修例：（フランス語の場合）

・ 1セメスター

ベーシック・フランス語Ⅰ（週2回）、インテンシブ・フランス語ⅠA（週1回）、
インテンシブ・フランス語ⅠB（週1回）

・ 2セメスター

ベーシック・フランス語Ⅱ（週2回）、インテンシブ・フランス語ⅡA（週1回）、
インテンシブ・フランス語ⅡB（週1回）

※開講クラスが限られていますので、希望者が多い場合には抽選を行うことがあります。必要に応じて説明会を開きますので、必ず出席してください。

◎3・4セメスター開講のもの

アドバンスト外国語Ⅰ（3セメスターに開講）

アドバンスト外国語Ⅱ（4セメスターに開講）

Ⅰでは、主に初歩的な表現能力の基礎の上に、「話す」「聞く」を中心としたコミュニケーション能力の習得を目標としています。

Ⅱでは、各種ジャンルの文章を読解する能力と、基本的な文章表現能力の習得を目標としています。

◎5・6セメスター開講のもの

アドバンスト外国語Ⅲ（5セメスターに開講）

アドバンスト外国語Ⅳ（6セメスターに開講）

Ⅲ・Ⅳについては、現在は韓国語のみしか開講されていませんが、これらの授業では「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能をバランスよく伸ばし、中級以上のレベルの総合的なコミュニケーション能力の習得を目標としています。

○このほかに授業外の自主的な学習を支援するものとして、外国語教育研究センターでは、初修外国語の各種学習プログラム（ドイツ語技能検定準備講座やドイツ語会話など）を提供しています。

2) 履修上の注意事項

① 初修外国語の履修基準

各学部等によっては、はじめから修得すべき言語や単位数が指定されている場合があるので、所属学部が定める履修基準表などを確認してください。

② その他の注意事項

- a. ベーシック外国語Ⅰで選んだのと同じ外国語を、ベーシック外国語Ⅱでも履修してください。
- b. ベーシック外国語Ⅰ，Ⅱは週2回連続の授業ですから、ペアになったクラスを履修してください。（多くのクラスでは同じ教員が担当しています。）
- c. 開講時間帯は毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」などを参照してください。

5. 情報科目

1) 授業の目標

問題解決に必要な情報処理を適切に行うための基礎知識や技術の習得、及び情報化社会における問題点に関する基礎知識、情報倫理の理解と習得を目標にしています。

2) 授業の内容

a. 講義系科目

「情報活用基礎」

授業は、ガイダンスや期末試験などを除き、講義とそれに対応した実習を交互に12週行います。そこでは、「コンピュータとネットワーク技術の基礎」、「コミュニケーション」、「調査と情報」、「メディアと情報化社会」等について多角的に考えていきます。また、情報倫理・セキュリティ（コンプライアンス教育を含む）に関する講義とオンラインによる学習を行います。

なお、実習はコンピュータを設置した教室で行われ、授業の進行によって教室を移動しますので注意してください。

「情報活用概論」

東千田キャンパスでのみ開講されます。

授業は、コンピュータとネットワーク技術の基礎、情報化社会の可能性と問題点について、デモンストレーションを交えて行います。

b. 実習系科目

「情報活用演習」

コンピュータの基本的操作、オフィスツールの利用、ネットワークの活用、情報倫理・セキュリティ（コンプライアンス教育を含む）など、共通性の高い項目の実習を行った後、特定のテーマにそって、問題解決や情報の受発信に必要な基礎技術を習得します。必修または選択必修としている学部が開講する授業と、情報メディア教育研究センターが開講する授業があります。

3) 履修上の注意事項

① 情報科目の履修基準と授業科目の選択

- a. 所属学部が、その学部開講の「情報活用演習」を必修または指定している場合は、その科目を履修してください。

（文学部、経済学部（昼間コース）、理学部（地球惑星システム学科を除く）、工学部第一類・第四類）

- b. 所属学部が、「情報活用基礎」を必修としている場合は、その科目を履修してください。（教育学部第一類）

- c. 所属学部が、「情報活用基礎」を指定しているか、あるいは「情報活用演習」を指定しておらず「情報活用基礎」と「情報活用演習」を選択必修としている場合があります。この場合は、前期に開講される「情報活用基礎」を履修してください。

（総合科学部、教育学部（第一類を除く）、法学部（昼間コース）、理学部地球惑星システム学科、医学部、歯学部、薬学部、工学部（第一類、第四類を除く）、生物生産学部）

- d. 法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田キャンパスで開講される「情報活用概論」を履修してください。(法学部夜間主コースは自由選択, 経済学部夜間主コースは必修です。)

② その他の注意事項

- a. 「情報活用基礎」のガイダンスと履修手続は, 前期第1週に教室で行います。「My もみじ」で履修手続を行うことはできません。

なお, 履修手続を行う日時, 教室はあらかじめ総合科学部K棟掲示板などに掲示します。各学部等によって日時, 教室が異なりますので注意してください。(毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」も参照してください)

また, ガイダンス時に, コンピュータ利用経験についてアンケートを行い, その結果に基づいて, クラス編成を行います。クラスによって, 第2週目に行くべき教室が異なりますので, 「My もみじ」などの掲示を必ず確認してください。

- b. 情報メディア教育研究センターが後期に開講する「情報活用演習」は再履修生を対象としており, 人数制限を行うため, 受講できないことがあります。
- c. 高等学校で教科「情報」を履修していることを前提に授業を行います。必要のある人には前提とする技能の学習環境を提供します。

6. 領域科目

1) 授業の目標

人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたのか、その根本にある考え方は何であるのかについて、文化的・社会的な視点等を踏まえながら、多様な学問領域の科目を通じて学ぶことを目標にしています。

2) 授業の内容

文明の継承と知的創造のために必要な基礎的知識を伝え、さまざまな学問領域についての知的関心を喚起する科目です。

それぞれの学問分野に基づいて、「人文科学領域」、「社会科学領域」、「自然科学領域」の3領域のほか、複数の分野に関わる「複合領域」、そして「外国語領域」、「キャリア教育領域」という、以上6領域で構成されています。

3) 履修上の注意事項

- a. 各学部等によって、領域科目の授業科目と、卒業に必要な単位数が異なっていますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。
- b. 領域科目の中には、各学部等によって必修科目、選択必修科目または要望科目として履修指定している授業科目がありますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。

領域科目の授業科目一覧

人文科学領域	社会科学領域	自然科学領域
哲学A 哲学B 哲学の世界 倫理学B 倫理学A 倫理学B 宗教学A 宗教学B ¹⁾ 芸術学A 芸術学B 日本文学(古典) 日本文学(近現代) 中国語圏の現代文化A 中国語圏の現代文化B 比較文学入門 英米文化事情概論Ⅰ 英米文化事情概論Ⅱ 英米文化事情概論Ⅲ 英米文化事情概論Ⅳ 文学・語学の世界 合唱A 合唱B 吹奏楽Ⅰ 吹奏楽Ⅱ 歴史学の世界 感性と身体教育論 ¹⁾	日本史A 日本史B 地域の歴史と環境 アジア史A アジア史B ヨーロッパ史A ヨーロッパ史B ¹⁾ 現代社会と経済 スポーツ・マスコミ論 ¹⁾ 政治の世界A 政治の世界B ¹⁾ 現代社会学A 現代社会学B 西アジア近現代史 法と市民 日本国憲法 現代ジャーナリズム論 実社会と法学 日本史A ¹⁾ 日本史B ¹⁾ 地域の歴史と環境 ¹⁾ アジア史A ¹⁾ アジア史B ¹⁾ ヨーロッパ史A 日本国憲法 政治の世界 マネジメント概論 社会学の視点	コンピュータ・プログラミング 物質とエネルギー 物理学概論 生物の世界 地球科学Aー地球の解体ー 地球科学Bー生きている地球ー 天文学 科学と人間 生命・食・環境のサイエンス メディア活用研究 自然環境形成論 世界の自然環境ーその現状と問題ー 東広島キャンパスの自然環境管理 放射線と自然科学 水・物質循環の科学 自然の縞と循環構造 カエルから見た生命システム 衣食住の基礎科学 食の安心・安全と健康科学 全身の健康と口腔科学 大地と家畜からのめぐみ(農場体験) フィールド科学入門 物理学概論 化学と人間 生物学 地球とその環境 ¹⁾ 資源と生活

複合領域

障害学生支援ボランティア実習 A
障害学生支援ボランティア実習 B
文化人類学 A 文化人類学 B
地域地理学 A 地域地理学 B
人文地理学 A 人文地理学 B
微生物と人間生活
地理・考古・文化財の世界
I N U 特別協力講義
I N U 特別集中講義
海外フィールドスタディ

行動の科学
社会経済統計論
技術史 A 技術史 B
心理学 A 心理学 B
脳と行動の科学
睡眠と生活リズム
科学史 A
科学史 B
心と行動の科学
認知の心理学

学生生活概論－生き方と暮らし方のヒント－
ジェンダーと社会
広島大学の歴史
現代の消費生活
名著との対話
国際協力を考える
釣りの科学－魚と人間のインターアクション－

地域地理学¹⁾
文化人類学
統計学への招待

科学技術史¹⁾
心理学 A¹⁾
心理学 B

食文化論

外国語領域

コミュニケーション上級英語
インテンシブ・ドイツ語 I A
インテンシブ・ドイツ語 I B
インテンシブ・ドイツ語 II A
インテンシブ・ドイツ語 II B
インテンシブ・フランス語 I A
インテンシブ・フランス語 I B
インテンシブ・フランス語 II A
インテンシブ・フランス語 II B
インテンシブ・スペイン語 I A
インテンシブ・スペイン語 I B
インテンシブ・スペイン語 II A
インテンシブ・スペイン語 II B

インテンシブ中国語 I A
インテンシブ中国語 I B
インテンシブ中国語 II A
インテンシブ中国語 II B
インテンシブ韓国語 I A
インテンシブ韓国語 I B
インテンシブ韓国語 II A
インテンシブ韓国語 II B
アドバンスト・ドイツ語 I
アドバンスト・ドイツ語 II
アドバンスト・フランス語 I
アドバンスト・フランス語 II

アドバンスト・スペイン語 I
アドバンスト・スペイン語 II
アドバンスト・ロシア語 I
アドバンスト・ロシア語 II
アドバンスト中国語 I
アドバンスト中国語 II
アドバンスト韓国語 I
アドバンスト韓国語 II
アドバンスト韓国語 III
アドバンスト韓国語 IV

キャリア教育領域

キャリアデザイン概論
広島大学のスペシャリスト

職業選択と自己実現－自分のキャリアをデザインしよう－
実践フロンランナープログラム
地域社会探検プロジェクト－ひろしまから世界へ－

キャリアデザイン概論

職業選択と自己実現－自分のキャリアをデザインしよう－

注)・上掲の表の中で、点線より上段の科目は昼間授業時間帯に開設する授業科目を、下段の科目は夜間授業時間帯に開設する授業科目を示します。また上段と下段のそれぞれの科目間には、対応関係のある科目が含まれます。詳しくは p. 教養35～p. 教養36の「2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目」を参照してください。

・下線が引いてある科目は3セメスター以降に開設する授業科目で、1年次に履修することはできません。詳しくはシラバスを参照してください。

・¹⁾ は平成26年度は開講しない授業科目であることを示します。

7. 健康スポーツ科目

1) 授業の目標

体力・健康づくりのための科学的理論を習得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性等の社会的スキルを習得することを目標にしています。

2) 授業の内容

生涯にわたり健康を考える科目として、実習科目と講義科目をまとめて一つの科目区分として提供します。実習科目には「スポーツ実習A」,「スポーツ実習B」(障害のある学生及び体力に自信のない学生対象)が、講義科目には「健康スポーツ科学」があります。

3) 履修上の注意事項

- a. 各学部等によって、履修基準(必修科目, 選択科目, 認定単位数等)が異なりますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。
- b. 「スポーツ実習A」と「スポーツ実習B」は、同じ教員や種目、授業科目名であっても繰り返し履修することができます。ただし、1セメスター(1年次前期)については、同一セメスターに2科目履修することはできません。(集中講義を除きます。)
- c. 「スポーツ実習A」と「スポーツ実習B」は、1週目にガイダンスを行います。
東広島キャンパス開講授業は西体育館アリーナに、東千田キャンパス開講授業は体育室に集合してください。なお、1週間目はガイダンスのため、服装は普段着で構いません。
- d. 集中講義のガイダンス日程は別途掲示等で指示します。

8. 基盤科目

1) 授業の目標

専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として、それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により、基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を習得することを目標にしています。

2) 授業の内容

各専門分野における論理的骨格や学問形成に必要不可欠な基礎的知識と技術を習得する科目です。なお、主に未履修者を対象とする、高等学校等で学ぶべき基礎的な内容を含む科目も開設しています(「数学基礎概論」、「初修物理学」、「初修生物学」など)。

3) 履修上の注意事項

- a. 所属学部が定める履修基準表などに基盤科目として卒業に必要な授業科目と単位数を定めています。それら以外の基盤科目については、卒業に必要な単位数に含まれない場合があります。
- b. 「*」は、【 】内の略号で表された学部の専門教育科目として履修することができる科目を示します。ただし、所属学部が定める履修基準表などにより、開講学部の専門教育科目として履修できない、又は履修に制限がある場合があります。

基盤科目一覧

1・2セメスターからの履修

ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門 政治学基礎 法学基礎 社会学基礎 刑事法原論 数学基礎概論 基礎微積分学 基礎線形代数学 微積分通論 線形代数通論 微積分学Ⅰ 微積分学Ⅱ 数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	線形代数学演習Ⅰ 線形代数学演習Ⅱ *数学概説【理】 *情報数理概説【理】 プログラミング序説 初修物理学 一般物理学 *物理学概説A【理】 *物理学概説B【理】 基礎物理学Ⅰ 基礎物理学ⅡA 基礎物理学ⅡB 一般力学Ⅰ 一般力学Ⅱ 基礎電磁気学 物理学実験 物理学実験法・同実験	初修化学 一般化学 *化学概説A【理】 *化学概説B【理】 有機化学 基礎物理化学 化学実験 化学実験法・同実験 初修生物学 *生物科学概説A【理】 *生物科学概説B【理】 細胞科学 生態学 種生物学 生物学実験 生物学実験法・同実験	*地球惑星科学概説A【理】 *地球惑星科学概説B【理】 地学実験 地学実験法・同実験 *機械工学概説【工】 Techno Vehicle 空間の創造 科学技術と人間社会 まちのかたちとくらし *社会の中における工学【工】 生物科学英語演習 統計学A 統計学B 統計データ解析A 統計データ解析B 医療従事者のための心理学 医療行動学
ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	法学基礎 社会学基礎	微積分通論 線形代数通論	経営学入門 刑事法原論

3セメスター以降の履修

応用化学概論 化学工学概論	バイオテクノロジー概論 数学英語演習	物理科学英語演習 化学英語演習	地球惑星科学英語演習
------------------	-----------------------	--------------------	------------

注)・上掲の表の中で、点線より上段の科目は昼間授業時間帯に開設する授業科目を、下段の科目は夜間授業時間帯に開設する授業科目を示します。また上段と下段のそれぞれの科目間には、対応関係のある科目が含まれます。詳しくはp.教養35～p.教養36の「2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目」を参照してください。

・「*」は【 】内の略号で表された学部の専門教育科目として履修することができる科目を示します。ただし、所属学部が定める履修基準表などにより、開講学部の専門教育科目として履修できない、又は履修に制限がある場合があります。なお、【 】内の理は理学部、工は工学部を表します。

IV. 履修に関する手続・相談等

1. 履修手続

所属学部が定める履修基準表などに基づき、毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」及びシラバスなどを参照しながら履修計画を作成し、履修を希望する授業科目は履修手続期間内に履修手続を完了してください。なお、受講者定員を超過した授業科目については受講者抽選等を行いますので、その結果を必ず「My もみじ」で確認してください。

履修手続を行っていない授業科目については、授業に全て出席し学期末試験を受験しても、単位を修得することはできません。

各授業科目の履修手続の詳細については、各学期開始前に「My もみじ」や総合科学部K棟掲示板などで通知しますので、確認してください。

2. 履修相談

教養教育科目の履修に関する質問・相談を以下の窓口で受け付けています。

- ・ 東広島及び霞キャンパスで開講される教養教育科目の履修相談
→ 教養教育本部支援グループ（総合科学部事務棟1階）（p. 教養43, p. 教養47参照）
受付時間：（月～金）8時30分～17時15分
- ・ 東千田キャンパスで開講される教養教育科目の履修相談
→ 東千田地区学生支援グループ（p. 教養49, p. 教養50参照）
受付時間：（月～金）12時30分～21時15分

なお、所属学部が定める履修基準表などに関する質問や相談については、所属学部の学生支援グループで受け付けます。（受付時間や連絡先などは p. 教養51を参照）

※病気等で授業を欠席する場合について

教養教育において病気その他のやむを得ない事由により2週間以上欠席する場合は、所属学部の学生支援グループに事由を証明する書類（診断書など）を添えて、欠席届を提出してください。2週間未満の場合は、各授業担当教員へ申し出てください。

なお、教育実習・介護等体験により欠席する場合の欠席届は別に定めています。

また、病気等で試験を欠席する場合の対応は、p. 教養25の「4. 追試験」の項を参照してください。

3. 学習支援室

学生の学習理解の向上を図ることを目的とし、課外での補足的な学習支援を行うため、「学習支援室」を設置しています。学習支援室は、大学院生等が、学習の方法や履修上の問題点について、その解決策や糸口などを見出すための助言を行うもので、英語・化学・数学・物理を対象に、授業実施日の16時30分から18時30分まで開く予定です。

なお、これら履修手続や学習支援室など、教養教育に関する様々な情報は、教養教育ホームページ（<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/>）でも確認できます。

●「学生情報の森 もみじ」について

「学生情報の森 もみじ」は広島大学で学び、生活するために必要な情報を提供するシステムです。イベント情報やサークル情報、その他手続きに関する情報など、誰でも自由に閲覧可能な「もみじ Top」と、広大 ID・広大パスワードでログイン後に利用する「My もみじ」から構成されています。

(1) 広大 ID と広大パスワード

広大 ID と広大パスワードの認証を受けて利用する「My もみじ」のサービスには、住所や成績等の個人情報の参照、履修科目の登録・変更等の手続きが含まれます。第三者によるなりすましを防ぎ、安全な学生生活を送るためにも、広大 ID と広大パスワードは適切に管理してください。

(2) 掲示、休講補講教室変更、試験情報

各種通知やお知らせ掲示、休講・補講、試験情報やその他授業に関する連絡事項など、学生生活に関する多くの情報は「My もみじ」に掲示されます。重要な情報を見逃さないよう、毎日「My もみじ」にログインして確認してください。

(3) 履修登録

学生は設定された期間に「My もみじ」から履修する科目を登録します。設定された期間以外は登録できません。登録可能な期間は「もみじ Top」でお知らせします。一部の授業では履修学生の調整を行うこともあるので、その指示に従ってください。「My もみじ」からシラバスを参照することもできます (p. 教養22参照)。

(4) 学籍情報

所属、住所、父母等の住所、電話番号などの情報が掲載されています。これらの情報はチューターの学生指導、事務職員による緊急を要する場合の連絡などに利用するため、変更などがあった際には所属学部の学生支援グループへ速やかに届け出てください。なお、メールアドレス、携帯電話番号、電話番号は、学内ネットワーク (HINET2007) からアクセスしている場合は「My もみじ」から変更可能です。

(5) 成績

学生は各自の成績を参照することができます。学部によっては、チューター、指導教員による面談及び承認が必要になります。(p. 教養26参照)

(6) アンケート

「My もみじ」から簡単に回答できるアンケート機能があり、授業改善につながる授業評価アンケートなどが行われます。

(7) 「My もみじ」へのアクセス

「My もみじ」は、学内外のネットワークに繋がったパソコンからアクセスできます。なお、学籍情報、成績情報等、個人情報が含まれる情報の参照は、学内ネットワークを利用してアクセスした時のみ可能です。また、「もみじ MOBILE」を利用し、携帯電話から掲示、休講補講教室変更、試験情報を参照することができます。

(8)「学生情報の森 もみじ」の利用可能時間について

「学生情報の森 もみじ」は24時間利用できますが、メンテナンス等によりシステムを一時停止することがあります。その場合は、「もみじ Top」の「システム管理者からのお知らせ」や、「もみじ MOBILE」トップページなどで通知します。

(9) その他の注意について

その他「My もみじ利用上の注意」を下記 URL に掲載しています。必ず一読した上でご利用ください。

<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/attention.html>

なお、もみじやEメールなどのネットワークを利用する上でのモラルや注意点については、情報メディア教育研究センターによる新入生向けガイダンスで説明があります。また、学生生活の手引「コンピュータ関係のトラブル防止」にも記載されています。これらの内容をよく理解した上でパソコンやネットワークを利用してください。

V. 試験及び成績

1. 期末試験

- a. 通常、15回の授業が実施された後に期末試験が行われます。すべての授業に出席することを心がけてください。
- b. 出席回数が授業実施時数の3分の2に満たない学生は、期末試験の受験を認めません。ただし、所定の手続を経て欠席した場合で、その理由が病気その他やむを得ない事情のときは、授業担当教員の判断により受験が認められることがあります。
- c. 試験実施日程や時間などの詳細については別途通知されます。

2. 試験時の主な注意事項

- a. 受験に際しては、必ず学生証を机上に提示してください。
- b. 学生証を携帯していない学生は受験できませんので、試験開始前に所定の手続を行ってください。
- c. 遅刻した学生は、試験室の入室を許可されない場合があります。
- d. 試験開始後30分を経過しなければ、試験室からの退室は許可されません。
- e. 答案用紙は、試験室外へ持ち出すことはできません。
- f. 携帯電話などは電源を切り、カバンの中に入れておいてください。時計代わりに使用することはできません。
- g. 携帯電話等試験に必要なものを机上に置いたり、使用している場合は**不正行為**と認定する場合があります。
- h. その他、試験中は監督者の指示に従ってください。

3. 不正行為

教養教育科目の期末試験などで不正行為を行った学生は、その期に履修している教養教育科目（教養ゼミを除く）の評価をすべて「不可（D）」とし、あわせて「広島大学学生懲戒指針」により厳正な措置がとられます。

4. 追試験

病気その他やむを得ない事情により、期末試験などの一部ないし全部を受験できなかった場合は、追試験を受験することができます。追試験の受験を希望する場合は、所定の**追試験受験願**とその理由を客観的に証明する書類（診断書等）を添えて、当該授業科目の試験実施後1週間以内に所属学部の学生支援グループ（法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田地区学生支援グループ）へ申請してください。**追試験受験願**の受理以降は、授業担当教員の指示に従ってください。

広島大学教養教育科目履修規則の第8条（p.教養38）を参照してください。

5. 試験などの特別措置

身体などの障害のために期末試験などを通常の条件のもとで受けることが難しい学生は、所属学部の学生支援グループに特別措置を申請することができます。

詳細については、「身体等に障害のある学生に対する試験等における特別措置について」（学部規則）を参照してください。

6. 成績

- a. 学業成績の評価は、試験、レポート及び授業への参加態度などによって判定します。成績は、別に定めるガイドラインに基づき、秀（S）、優（A）、良（B）、可（C）及び不可（D）の5段階で厳格に評価され、秀、優、良、可を合格とします。
- b. 成績の発表については、所属学部等の指示に従ってください。
- c. 成績に疑義のある場合は、成績発表後から次の学期の授業開始後1週間以内に総合科学部内の教養教育本部支援グループ（法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田地区学生支援グループ）へ申し出てください。

VI. 平成26年度教養教育開設授業科目一覽

1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目

(1) 東広島キャンパス開講分

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
教養ゼミ	平和科目	教養ゼミ	2	1	演習	
		広島と平和	2	1	講義	
		平和を考える	2	1	講義	
		ヒロシマ発平和学	2	1	講義	平成26年度は開講しません。
		平和と人間Aー環境と生物の未来へー	2	1	講義	
		平和と人間Bー人間と文化の未来へー	2	1	講義	
		平和と人間Cー広島で学ぶ(原爆とは何だったか)ー	2	1	講義	
		平和と人権ーグローバル化とジェンダー視点	2	1	講義	
		原爆体験と表象／文学	2	1	講義	
		グローバル・パートナーシップ学	2	1	講義	
		ヒロシマ学	2	1	講義	
		戦争と平和に関する総合的考察	2	1	講義	
		ジブンから始まる世界平和	2	1	講義	
		飢餓・貧困・環境問題からみた平和学	2	1	講義	
		環境と平和	2	1	講義	
		国際関係論	2	1	講義	
		*戦争と平和に関する史的研究【教】	2	1	講義	
		医学からみた戦争と平和	2	1	講義	
	環境と軍事	2	1	講義		
	国際紛争論ー人間の視点からー	2	1	講義		
	社会のしくみと科学	教育と制度	2	1	講義	
		自動車産業と日本経済	2	1	講義	
		心と社会	2	1	講義	
		産業と技術	2	1	講義	
		市民生活における規範のゆらぎ	2	1	講義	
		生活から見た日本の近代	2	1	講義	
		ヨーロッパ近代と市民社会	2	1	講義	
		生活を取りまく家族・地域・産業	2	1	講義	
		市民生活と物理	2	1	講義	
		アジアの社会史	2	1	講義	
		社会のなかの科学	2	1	講義	
		環境と化学	2	1	講義	
		地域の分析	2	1	講義	
核時代の科学と社会		2	1	講義		
東洋の思想		2	1	講義		
教育と人間		2	1	講義		
認知と学習		2	1	講義		
数学の世界		2	1	講義		
知能とコンピュータ		2	1	講義		
統計学で考える		2	1	講義		
コミュニケーションの哲学		2	1	講義		
人間・歴史・風景の感性哲学	2	1	講義			
脳と知	2	1	講義			
物理と情報	2	1	講義			
大学と社会	2	1	講義			
美術と人間	2	1	講義			
大学と学生	2	1	講義			
「所有感」と「人の幸せ」を考える	2	1	講義			

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(注2) 授業科目欄の*印は、【 】内の略号で表された学部の特設教育科目として履修することができる科目を示す。ただし、所属学部が定める教育課程により、専門教育科目として履修することができない、又は履修に制限がある場合がある。

科目区分			授 業 科 目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備 考
教 養 コ ケ ー ジ 別 科 目		生命・人間への接近	脳と行動	2	1	講義	
			実存の探究	2	1	講義	
			聖書の人間理解	2	1	講義	
			社会的なものと人間	2	1	講義	
			心と適応	2	1	講義	
			人間と健康	2	1	講義	
			遺伝子の世界	2	1	講義	
			人の生と死をめぐる法と社会	2	1	講義	
			日本文学からみた人間性	2	1	講義	
			適応の生理	2	1	講義	
			生物学からみたストレス	2	1	講義	
			いのちを支える酵素	2	1	講義	
			社会福祉と貧困	2	1	講義	
			文化の交流と多様性	中国文学の世界	2	1	講義
		ヨーロッパ文学の世界		2	1	講義	
		英語圏の文学と社会		2	1	講義	
		文化人類学の世界		2	1	講義	
		世界の中の日本語・日本文化		2	1	講義	
		翻訳の文学		2	1	講義	
		日本の歴史と文化		2	1	講義	
		アジアの近現代		2	1	講義	
		中東・イスラームの世界		2	1	講義	
		文化と自然		2	1	講義	
		自然環境と地図		2	1	講義	
		比較芸術文化		2	1	講義	
		国際社会と法		2	1	講義	
		岩石・資源と人間		2	1	講義	
		環境・自然との共生	気候と生物	2	1	講義	
			森林と人間	2	1	講義	
			経済発展と環境	2	1	講義	平成26年度は開講しません。
			自然災害と防災	2	1	講義	
			芸術と自然	2	1	講義	
			自然と宗教	2	1	講義	
			物質循環と地球環境	2	1	講義	
			微生物の世界	2	1	講義	
			地球の姿と歴史	2	1	講義	
			環境と政治	2	1	講義	
			生物生産と自然との関わり	2	1	講義	
			環境観と環境問題	2	1	講義	
			グローバル経済と環境権	2	1	講義	
		自然理解の進化と環境	2	1	講義		
共 通 科 目	外国語科目	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	1	演習	
			コミュニケーション基礎Ⅱ	1	1	演習	
		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅠA	3 (1)	1	演習	
			コミュニケーションⅠB	3 (1)	1	演習	
		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅡA	3 (1)	1	演習	
			コミュニケーションⅡB	3 (1)	1	演習	
		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションⅢA	1	2	演習	
			コミュニケーションⅢB	1	2	演習	
			コミュニケーションⅢC	1	2	演習	
		英語圏フィールドリサーチ	4 (1～4)	1	演習		
マルチメディア英語演習	6 (1)	1	演習				

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、()で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分				授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考			
共通科目	外国語科目	初級外国語	ベーシック外国語	ベーシック・ドイツ語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・ドイツ語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・フランス語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・フランス語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・スペイン語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・スペイン語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・ロシア語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・ロシア語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック中国語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック中国語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック韓国語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック韓国語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・アラビア語Ⅰ	2 (1)	1	演習				
				ベーシック・アラビア語Ⅱ	2 (1)	1	演習				
	情報科目			情報活用基礎	2	1	演習				
				情報活用演習	2	1	演習				
	人文科学領域			哲学A	2	1	講義				
				哲学B	2	1	講義				
				哲学の世界	2	1	講義				
				倫理学A	2	1	講義				
				倫理学B	2	1	講義				
				宗教学A	2	1	講義				
				宗教学B	2	1	講義	平成26年度は開講しません。			
				芸術学A	2	1	講義				
				芸術学B	2	1	講義				
				日本文学（古典）	2	1	講義				
				日本文学（近現代）	2	1	講義				
				中国語圏の現代文化A	2	1	講義				
				中国語圏の現代文化B	2	1	講義				
				比較文学入門	2	1	講義				
				英米文化事情概論Ⅰ	1	1	演習				
				英米文化事情概論Ⅱ	1	1	演習				
				英米文化事情概論Ⅲ	1	2	演習				
				英米文化事情概論Ⅳ	1	2	演習				
				文学・語学の世界	2	1	講義				
				合唱A	1	1	実習				
				合唱B	1	1	実習				
				吹奏楽Ⅰ	1	1	実習				
				吹奏楽Ⅱ	1	1	実習				
				歴史学の世界	2	1	講義				
				感性と身体教育論	2	1	講義	平成26年度は開講しません。			
				社会科学領域			地域の歴史と環境	2	1	講義	
							日本史A	2	1	講義	
							日本史B	2	1	講義	
							アジア史A	2	1	講義	
							アジア史B	2	1	講義	
							ヨーロッパ史A	2	1	講義	
							ヨーロッパ史B	2	1	講義	平成26年度は開講しません。
							現代社会と経済	2	1	講義	
							スポーツ・マスコミ論	2	1	講義	平成26年度は開講しません。
	政治の世界A	2	1				講義				
	政治の世界B	2	1				講義	平成26年度は開講しません。			
	現代社会学A	2	1				講義				
	現代社会学B	2	1				講義				
	西アジア近現代史	2	1				講義				
	法と市民	2	1				講義				
	日本国憲法	2	1				講義				
	現代ジャーナリズム論	2	2				講義				

(注1) 開設単位数（修得可能な上限単位数）と開講単位数（1科目当たりの単位数）が異なる授業科目については、（ ）で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共通領域科目	自然科学領域	コンピュータ・プログラミング	2	1	講義	
		物質とエネルギー	2	1	講義	
		物理学概論	2	1	講義	
		生物の世界	2	1	講義	
		地球科学Aー地球の解体ー	2	1	講義	
		地球科学Bー生きている地球ー	2	1	講義	
		天文学	2	1	講義	
		科学と人間	2	1	講義	
		生命・食・環境のサイエンス	2	1	講義	
		メディア活用研究	2	2	講義	
		自然環境形成論	2	1	講義	
		水・物質循環の科学	2	1	講義	
		自然の縞と循環構造	2	1	講義	
		世界の自然環境ーその現状と問題ー	2	1	講義	
		放射線と自然科学	2	1	講義	
		大地と家畜からのめぐみ(農場体験)	2	2	講義	平成26年度は開講しません。
		フィールド科学入門	2	2	講義	平成26年度は開講しません。
		東広島キャンパスの自然環境管理	2	1	講義	
		食の安心・安全と健康科学	2	1	講義	
		カエルから見た生命システム	2	1	講義	
		衣食住の基礎科学	2	1	講義	
	外国語領域	コミュニケーション上級英語	2 (1)	1	演習	
		インテンシブ・ドイツ語ⅠA	1	1	演習	
		インテンシブ・ドイツ語ⅠB	1	1	演習	
		インテンシブ・ドイツ語ⅡA	1	1	演習	
		インテンシブ・ドイツ語ⅡB	1	1	演習	
		インテンシブ・フランス語ⅠA	1	1	演習	
		インテンシブ・フランス語ⅠB	1	1	演習	
		インテンシブ・フランス語ⅡA	1	1	演習	
		インテンシブ・フランス語ⅡB	1	1	演習	
		インテンシブ・スペイン語ⅠA	1	1	演習	
		インテンシブ・スペイン語ⅠB	1	1	演習	
		インテンシブ・スペイン語ⅡA	1	1	演習	
		インテンシブ・スペイン語ⅡB	1	1	演習	
		インテンシブ中国語ⅠA	1	1	演習	
		インテンシブ中国語ⅠB	1	1	演習	
		インテンシブ中国語ⅡA	1	1	演習	
		インテンシブ中国語ⅡB	1	1	演習	
		インテンシブ韓国語ⅠA	1	1	演習	
		インテンシブ韓国語ⅠB	1	1	演習	
		インテンシブ韓国語ⅡA	1	1	演習	
		インテンシブ韓国語ⅡB	1	1	演習	
		アドバンスト・ドイツ語Ⅰ	1	2	演習	
		アドバンスト・ドイツ語Ⅱ	1	2	演習	
		アドバンスト・フランス語Ⅰ	2 (1)	2	演習	
		アドバンスト・フランス語Ⅱ	2 (1)	2	演習	
		アドバンスト・スペイン語Ⅰ	1	2	演習	
		アドバンスト・スペイン語Ⅱ	1	2	演習	
		アドバンスト・ロシア語Ⅰ	1	2	演習	
		アドバンスト・ロシア語Ⅱ	1	2	演習	
		アドバンスト中国語Ⅰ	2 (1)	2	演習	
		アドバンスト中国語Ⅱ	2 (1)	2	演習	
		アドバンスト韓国語Ⅰ	3 (1)	2	演習	
		アドバンスト韓国語Ⅱ	3 (1)	2	演習	
		アドバンスト韓国語Ⅲ	1	3	演習	
		アドバンスト韓国語Ⅳ	1	3	演習	

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、()で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共通科目	複合領域	文化人類学A	2	1	講義	
		文化人類学B	2	1	講義	
		地域地理学A	2	1	講義	
		地域地理学B	2	1	講義	
		人文地理学A	2	1	講義	
		人文地理学B	2	1	講義	
		行動の科学	2	1	講義	
		社会経済統計論	2	1	講義	
		技術史A	2	1	講義	
		技術史B	2	1	講義	
		心理学A	2	1	講義	
		心理学B	2	1	講義	
		脳と行動の科学	2	1	講義	
		睡眠と生活リズム	2	1	講義	
		科学史A	2	1	講義	
		科学史B	2	1	講義	
		心と行動の科学	2	1	講義	
		学生生活概論－生き方と暮らし方のヒント－	2	1	講義	
		障害学生支援ボランティア実習A	1	1	実習	
		障害学生支援ボランティア実習B	1	1	実習	
		微生物と人間生活	2	1	講義	
		地理・考古・文化財の世界	2	1	講義	
		I N U特別協力講義	2	1	講義	
		I N U特別集中講義	2	1	講義	
		海外フィールドスタディ	2	1	講義・演習	講義20時間と演習44時間の授業で2単位とする。
		国際協力を考える	2	2	講義	平成26年度は開講しません。
		認知の心理学	2	2	講義	
		釣りの科学 －魚と人間のインターアクション－	2	1	講義	
		ジェンダーと社会	2	1	講義	
		広島大学の歴史	2	1	講義	
		現代の消費生活	2	1	講義	
		名著との対話	2 (1)	1	演習	
	キャリア教育領域	キャリアデザイン概論	2	1	講義	
		職業選択と自己実現 －自分のキャリアをデザインしよう－	2	1	講義	
		実践フロンティアプログラム	2 (1)	1	演習	
		地域社会探検プロジェクト －ひろしまから世界へ－	2	1	講義・実習	講義20時間と実習30時間で2単位とする。
		広島大学のスペシャリスト	2	1	講義	
	健康スポーツ科目	健康スポーツ科学	2	1	講義	
		スポーツ実習A	(1)	1	実習	
		スポーツ実習B	(1)	1	実習	
基盤科目		ミクロ経済学入門	2	1	講義	
		マクロ経済学入門	2	1	講義	
		刑事法原論	2	1	講義	
		政治学基礎	2	1	講義	
		法学基礎	2	1	講義	
		社会学基礎	2	1	講義	
		数学基礎概論	2	1	講義	
		基礎微分積分学	2	1	講義	
		基礎線形代数学	2	1	講義	
		微分積分通論	2	1	講義	
		線形代数通論	2	1	講義	

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、()で開講単位数を表示している。なお、スポーツ実習A及びスポーツ実習Bについては、開講単位数のみ設定している(上限単位数の設定なし)。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分	授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
基 盤 科 目	微分積分学Ⅰ	2	1	講義	
	微分積分学Ⅱ	2	1	講義	
	数学演習Ⅰ	1	1	演習	
	数学演習Ⅱ	1	1	演習	
	線形代数学Ⅰ	2	1	講義	
	線形代数学Ⅱ	2	1	講義	
	線形代数学演習Ⅰ	1	1	演習	
	線形代数学演習Ⅱ	1	1	演習	
	*数学概説【理】	2	1	講義	
	*情報数理解説【理】	2	1	講義	
	プログラミング序説	2	1	講義	
	一般物理学	2	1	講義	
	*物理学概説A【理】	2	1	講義	
	*物理学概説B【理】	2	1	講義	
	基礎物理学Ⅰ	2	1	講義	
	基礎物理学ⅡA	2	1	講義	
	基礎物理学ⅡB	2	1	講義	
	一般力学Ⅰ	2	1	講義	
	一般力学Ⅱ	2	1	講義	
	基礎電磁気学	2	1	講義	
	物理学実験	1	1	実験	
	物理学実験法・同実験	2	1	講義・実験	講義15時間と実験45時間の授業で2単位とする。
	初修化学	2	1	講義	
	一般化学	2	1	講義	
	*化学概説A【理】	2	1	講義	
	*化学概説B【理】	2	1	講義	
	有機化学	2	1	講義	
	基礎物理化学	2	1	講義	
	化学実験	1	1	実験	
	化学実験法・同実験	2	1	講義・実験	講義15時間と実験45時間の授業で2単位とする。
	応用化学概論	2	2	講義	
	化学工学概論	2	2	講義	
	*生物科学概説A【理】	2	1	講義	
	*生物科学概説B【理】	2	1	講義	
	細胞科学	2	1	講義	
	生態学	2	1	講義	
	種生物学	2	1	講義	
	生物学実験	1	1	実験	
	生物学実験法・同実験	2	1	講義・実験	講義15時間と実験45時間の授業で2単位とする。
	バイオテクノロジー概論	2	2	講義	
	*地球惑星科学概説A【理】	2	1	講義	
	*地球惑星科学概説B【理】	2	1	講義	
	地学実験	1	1	実験	
	地学実験法・同実験	2	1	講義・実験	講義15時間と実験45時間の授業で2単位とする。
	*機械工学概論【工】	2	1	講義	
	Techno Vehicle	2	1	講義	
	空間の創造	2	1	講義	
	科学技術と人間社会	2	1	講義	
	まちのかたちとくらし	2	1	講義	
	*社会の中における工学【工】	2	1	講義	
	数学英語演習	1	2	演習	
	物理科学英語演習	1	3	演習	

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(注2) 授業科目欄の*印は、【 】内の略号で表された学部の専門教育科目として履修することができる科目を示す。ただし、所属学部が定める教育課程により、専門教育科目として履修することができない、又は履修に制限がある場合がある。

科目区分	授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
基 盤 科 目	化学英語演習	2 (1)	3	演習	
	生物科学英語演習	1	1	演習	
	地球惑星科学英語演習	1	2	演習	
	統計学A	2	1	講義	
	統計学B	2	1	講義	
	統計データ解析A	2	1	講義	
	統計データ解析B	2	1	講義	
	医療従事者のための心理学	2	1	講義	

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、()で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(2) 霞キャンパス開講分

科 目 区 分				授 業 科 目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備 考
警 習	教 養 ゼ ミ			教養ゼミ	2	1	演習	
	共通科目	外国語科目	英 語	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	1	演習	
コミュニケーション基礎Ⅱ				1	1	演習		
コミュニケーションⅢ			コミュニケーションⅢ A	1	2	演習		
			コミュニケーションⅢ B	1	2	演習		
			コミュニケーションⅢ C	1	2	演習		
基 盤 科 目			医療行動学	2	1	講義		

(注) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(3) 東千田キャンパス開講分

科目区分			授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共 通 科 目	領域科目	社会科学領域	現代社会と経済	2	1	講義	
		基 盤 科 目	政治学基礎	2	1	講義	

(注) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(4) 双方向授業（東広島ー霞キャンパス間）

科目区分			授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
警 習 共 通 科 目	バック ジ 別 科 目	生命・人間 への接近	脳のはたらき	2	1	講義	
		領域科目	自然科学領域	2	1	講義	
	基 盤 科 目		初修物理学	2	1	講義	
			初修生物学	2	1	講義	

(注) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

(5) 双方向授業（東広島ー東千田キャンパス間）

科目区分			授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共 通 科 目	領域科目	社会科学領域	実社会と法学	2	2	講義	平成26年度は開講しません。

(注) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目

東千田キャンパス開講分

科目区分			授業科目	開設 単位数	開設 年次	授業の 方法	備考	昼間授業時間帯 開設授業科目
教養 コア科目	教 養 ゼ ミ		教養ゼミ	2	1	演習		(対応科目なし)
	平 和 科 目		平和と人間Cー広島で学ぶ (原爆とは何だったか)ー	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	平和と人間Cー広島で学ぶ (原爆とは何だったか)ー
			平和と人間D ー広島から未来に向けてー	2	1	講義		(対応科目なし)
			ヒロシマ発平和学	2	1	講義		ヒロシマ発平和学
共通 科目	外 国 語	英 語	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	1	演習		コミュニケーション基礎Ⅰ
			コミュニケーション基礎Ⅱ	1	1	演習		コミュニケーション基礎Ⅱ
		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅠA	3 (1)	1	演習		コミュニケーションⅠA
			コミュニケーションⅠB	3 (1)	1	演習		コミュニケーションⅠB
		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅡA	3 (1)	1	演習		コミュニケーションⅡA
			コミュニケーションⅡB	3 (1)	1	演習		コミュニケーションⅡB
		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションⅢA	1	2	演習		コミュニケーションⅢA
			コミュニケーションⅢB	1	2	演習		コミュニケーションⅢB
			コミュニケーションⅢC	1	2	演習	平成26年度は開講しません。	コミュニケーションⅢC
		初 修 外 国 語	ベーシック・ドイツ語Ⅰ	2 (1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語Ⅰ
			ベーシック・ドイツ語Ⅱ	2 (1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語Ⅱ
			ベーシック・フランス語Ⅰ	2 (1)	1	演習		ベーシック・フランス語Ⅰ
	ベーシック・フランス語Ⅱ		2 (1)	1	演習		ベーシック・フランス語Ⅱ	
	ベーシック中国語Ⅰ		2 (1)	1	演習		ベーシック中国語Ⅰ	
	ベーシック中国語Ⅱ		2 (1)	1	演習		ベーシック中国語Ⅱ	
	情 報 科 目		情報活用概論	2	1	講義		(対応科目なし)
	科 学 領 域 目	人文学 科学 領域	哲学A	2	1	講義		哲学A
			倫理学A	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	倫理学A
			宗教学B	2	1	講義		宗教学B
			日本文学（古典）	2	1	講義		日本文学（古典）
			日本文学（近現代）	2	1	講義		日本文学（近現代）
			東洋文学	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	中国語圏の現代文化A
			西洋文学と文学理論	2	1	講義		比較文学入門
社会科学 科学 領域		日本史A	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	日本史A	
		日本史B	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	日本史B	
		アジア史A	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	アジア史A	
		アジア史B	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	アジア史B	
		ヨーロッパ史A	2	1	講義		ヨーロッパ史A	
		政治の世界	2	1	講義		政治の世界A	
		社会学の視点	2	1	講義		現代社会学A	
		日本国憲法	2	1	講義		日本国憲法	
		マネジメント概論	2	1	講義		(対応科目なし)	
		地域の歴史と環境	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	地域の歴史と環境	
自然科学 科学 領域		物理学概論	2	1	講義		物理学概論	
		化学と人間	2	1	講義		(対応科目なし)	
		生物学	2	1	講義		(対応科目なし)	
		地球とその環境	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	(対応科目なし)	
		資源と生活	2	1	講義		(対応科目なし)	
		地域地理学	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	地域地理学A	
複合領域		文化人類学	2	1	講義		文化人類学A	
		統計学への招待	2	1	講義		統計データ解析A	
		科学技術史	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	(対応科目なし)	
		心理学A	2	1	講義	平成26年度は開講しません。	心理学A	
	心理学B	2	1	講義		心理学B		
	食文化論	2	1	講義		(対応科目なし)		

科目区分			授業科目	開設 単位数	開設 年次	授業の 方法	備 考	昼間授業時間帯 開設授業科目
共通科目	領域科目	キャリア教育領域	キャリアデザイン概論	2	1	講義		キャリアデザイン概論
			職業選択と自己実現 －自分のキャリアをデザインしよう－	2	1	講義		職業選択と自己実現 －自分のキャリアをデザインしよう－
	健康スポーツ科目		健康スポーツ科学	2	1	講義		健康スポーツ科学
			スポーツ実習 A	(1)	1	実習		スポーツ実習 A
	基盤科目		ミクロ経済学入門	2	1	講義		ミクロ経済学入門
			マクロ経済学入門	2	1	講義		マクロ経済学入門
			法学基礎	2	1	講義		法学基礎
			社会学基礎	2	1	講義		社会学基礎
			刑事法原論	2	1	講義		刑事法原論
			微分積分通論	2	1	講義		微分積分通論
			線形代数通論	2	1	講義		線形代数通論
			経営学入門	2	1	講義		(対応科目なし)

(注1) 本表は平成26年度入学生が「平成26年度教養教育開設授業科目一覧」の「1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目」(p. 教養27～p. 教養34)に記載されている授業科目を履修した場合の対応表を兼ねる。本表の「昼間授業時間帯開設授業科目」に記載されている授業科目を履修した場合は、左欄の授業科目を履修したものとみなされる。

(注2) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、()で開講単位数を表示している。なお、スポーツ実習 A については、開講単位数のみ設定している(上限単位数の設定なし)。

(注3) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する学期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

VII. 教養教育関係規則等

1. 広島大学教養教育科目履修規則

平成23年2月15日規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、広島大学通則（平成16年4月1日規則第2号）第19条第3項の規定に基づき、広島大学における教養教育科目の履修等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目区分及び教育目標)

第2条 教養教育科目の科目区分及び教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。

科目区分		教育目標
教養コア科目	教 養 ゼ ミ	自主的な学習によって支えられる大学教育へのオリエンテーション機能を果たすため、入学後の早い段階で知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てる。
	平 和 科 目	戦争・紛争、核廃絶、貧困、飢餓、人口増加、環境、教育、文化等の様々な観点から平和について考え、理解を深める。
	パッケージ別科目	複数の授業を有機的に関連付けながら知識の持つ真の意味や広がりを実感し、人類や社会が抱える歴史的・現代的な課題を理解する。
共通科目	外 国 語 科 目	グローバル化時代に対応するため、様々な外国語で情報を受信し、発信できるコミュニケーション能力を養成し、知識・技能を習得するとともに、異なる言語や文化に対する理解を深める。
	情 報 科 目	問題解決に必要な情報処理を適切に行うための基礎知識や技術の習得、及びネットワーク上のモラルや情報化社会における問題点に関する基礎知識を習得する。
	領 域 科 目	人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたのか、その根本にある考え方は何であるのかについて、文化的・社会的な視点等を踏まえながら、多様な学問領域の科目を通じて学ぶ。
	健康スポーツ科目	体力・健康づくりのための科学的理論を習得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性等の社会的スキルを習得する。
基 盤 科 目		専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として、それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により、基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を習得する。

(授業科目及び単位数等)

第3条 教養教育科目として開設する授業科目（以下「授業科目」という。）、単位数等は、別表のとおりとする。

2 授業時間割は、学年の始めに発表する。

(履修方法)

第4条 教養教育科目の履修方法については、各学部細則の定めるところによる。

(単位数の計算の基準)

第5条 授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習及び実習は、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験は、45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業科目について、二以上の方法の併用により授業を行う場合の単位数の計算は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとなるよう、前項の基準を考慮してそれらの方法ごとに時間を定めるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、次の各号に掲げるものについては、当該各号に定めるところによる。

(1) 教養ゼミは、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 情報科目の情報活用基礎及び情報活用演習は、15時間の授業をもって1単位とする。

(履修手続)

第6条 学生は、授業科目を履修しようとするときは、毎学期指定する期間中に所定の手続をしなければならない。ただし、受講者数の制限等を行う授業科目にあっては、所定の手続を経た場合であっても履修が認められない場合がある。

2 前項本文に規定する所定の手続をしなかった場合は、当該授業科目の履修を認めない。ただし、特別の事由がある場合に限り、当該授業科目担当教員の承認を経て、履修を認めることがある。

3 既に単位を修得した授業科目については、原則として履修することができない。

(試験)

第7条 試験は、原則として毎学期末に行う。ただし、授業科目によりレポート又は平常の成績をもって試験の成績に代えることがある。

2 試験の方法及び期日は、あらかじめ発表する。

3 授業実施時数の3分の2以上の出席を満たさない場合は、受験を認めない。ただし、所定の手続を経て欠席した場合で、その欠席が病気その他のやむを得ない事由によると認められるときは、当該授業科目担当教員の判断によるものとする。

(追試験)

第8条 次の各号のいずれかの理由により試験を受けることができなかった者は、追試験を受けることができる。

(1) 配偶者又は3親等内の親族の死亡による忌引

(2) 負傷又は疾病（入院又はこれに準ずる場合に限る。）

(3) 天災その他の非常災害

(4) 交通機関の突発事故

(5) その他やむを得ない事情

2 追試験を受けようとする者は、原則として当該授業科目の試験実施後1週間以内に、所定の追試験受験願を所属学部長に願い出なければならない。

3 追試験受験を許可された者は、原則として当該授業科目担当教員の指定する日時に追試験を受験しなければならない。

4 追試験の実施期間は、当該授業科目の試験実施後3週間以内とする。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、教養教育科目の履修等に関し必要な事項は、教養教育本部が定める。

(略)

附 則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前に入学した学生の教養教育科目の授業科目については、この規則による改正後の広島大学教養教育科目履修規則（以下「新規則」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、教養教育本部の定めるところにより、新規則に規定する授業科目の履修を認める場合がある。

別表（略）

※別表の内容は、「平成26年度教養教育科目開設授業科目一覧」（p. 教養27～p. 教養36）の中に掲載しています。

2. 外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて

広島大学通則（以下「通則」という。）第30条第1項及び第31条第2項に規定するその他文部科学大臣が別に定める学修のうち、実用英語技能検定、TOEFL(R) 及び TOEIC(R) の検定試験等による単位認定については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 認定の対象となる外国語技能検定試験等

- ① 実用英語技能検定試験（英検）
- ② TOEFL(R) テスト
- ③ TOEIC(R) 公開テスト及び広島大学外国語教育研究センターが実施する TOEIC(R) IP テスト

(2) 認定授業科目及び単位数

- ① 実用英語技能検定試験（英検）

級 位	認 定 授 業 科 目	認定単位数
1 級	コミュニケーション基礎	2 単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内
	コミュニケーションⅢ	2 単位以内
準1 級	コミュニケーション基礎	2 単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内

- ② TOEFL(R) テスト

得 点			認定授業科目	認定単位数
Paper-Based	Computer-Based	Internet-Based		
560点以上	220点以上	83点以上	コミュニケーション基礎	2 単位以内
			コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内
			コミュニケーションⅢ	2 単位以内
520点以上	190点以上	68点以上	コミュニケーション基礎	2 単位以内
560点未満	220点未満	83点未満	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内
500点以上	173点以上	61点以上	コミュニケーション基礎	2 単位以内
520点未満	190点未満	68点未満	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2 単位以内

③ TOEIC(R) 公開テスト及び広島大学外国語教育研究センターが実施する TOEIC(R) IP テスト

得 点	認 定 授 業 科 目	認定単位数
860点以上	コミュニケーション基礎	2 単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内
	コミュニケーションⅢ	2 単位以内
730点以上 860点未満	コミュニケーション基礎	2 単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4 単位以内
640点以上 730点未満	コミュニケーション基礎	2 単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2 単位以内

- (注)・コミュニケーション基礎は、コミュニケーション基礎Ⅰ、コミュニケーション基礎Ⅱの授業科目を示す。
 ・コミュニケーションⅠ・Ⅱは、コミュニケーションⅠA、コミュニケーションⅠB、コミュニケーションⅡA、コミュニケーションⅡBの授業科目を示す。
 ・コミュニケーションⅢは、コミュニケーションⅢA、コミュニケーションⅢB、コミュニケーションⅢCの授業科目を示す。

(3) 単位認定の申請方法及び範囲

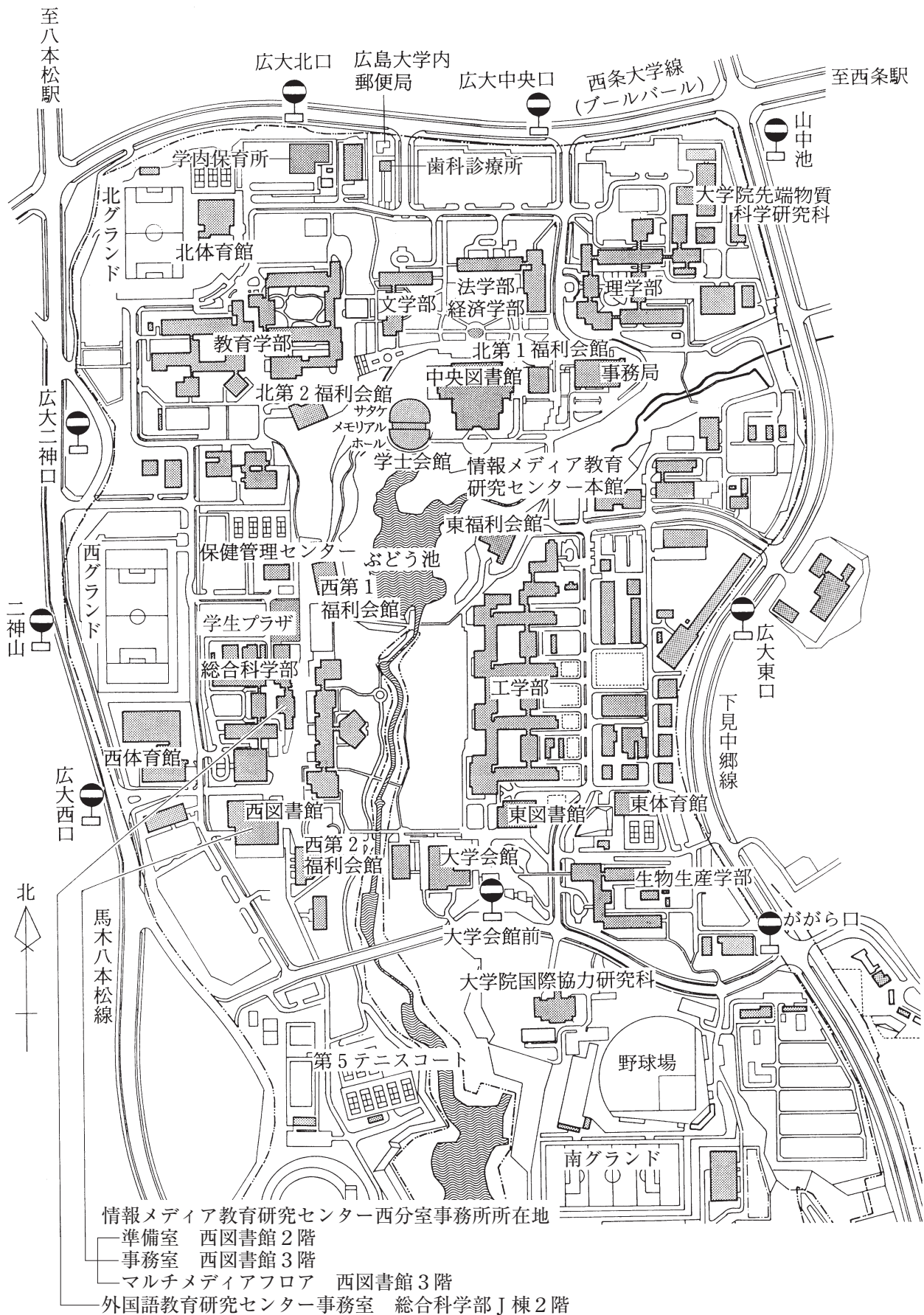
- ① 入学前に所定の級位又は点数を得た者で、通則第31条第2項の規定に基づき単位認定を受けようとするものは、広島大学既修得単位等の認定に関する細則に定める既修得単位等認定願に代えて、外国語技能検定試験等による単位認定申請書（別紙）に、原則として認定証又は得点証明書の原本を添えて、所属する学部申請する。
- ② 入学後に所定の級位又は点数を得た者で、通則第30条第1項の規定に基づき単位認定を受けようとするものは、各期の履修手続期間最終日までに、外国語技能検定試験等による単位認定申請書に、原則として認定証又は得点証明書の原本を添えて、所属する学部申請する。
- ③ 申請時に単位を修得していない授業科目についてのみ、申請を認める。
- ④ 認定は単位のみとし、成績評価は付さない。
- ⑤ 各授業科目の認定単位数は、1 単位を限度とする。
- ⑥ 申請の際現に履修登録している授業科目の認定を希望する場合は、当該授業科目の登録内容の変更について、「単位不要」又は「履修取消」のいずれかから選択する。

(4) 適用

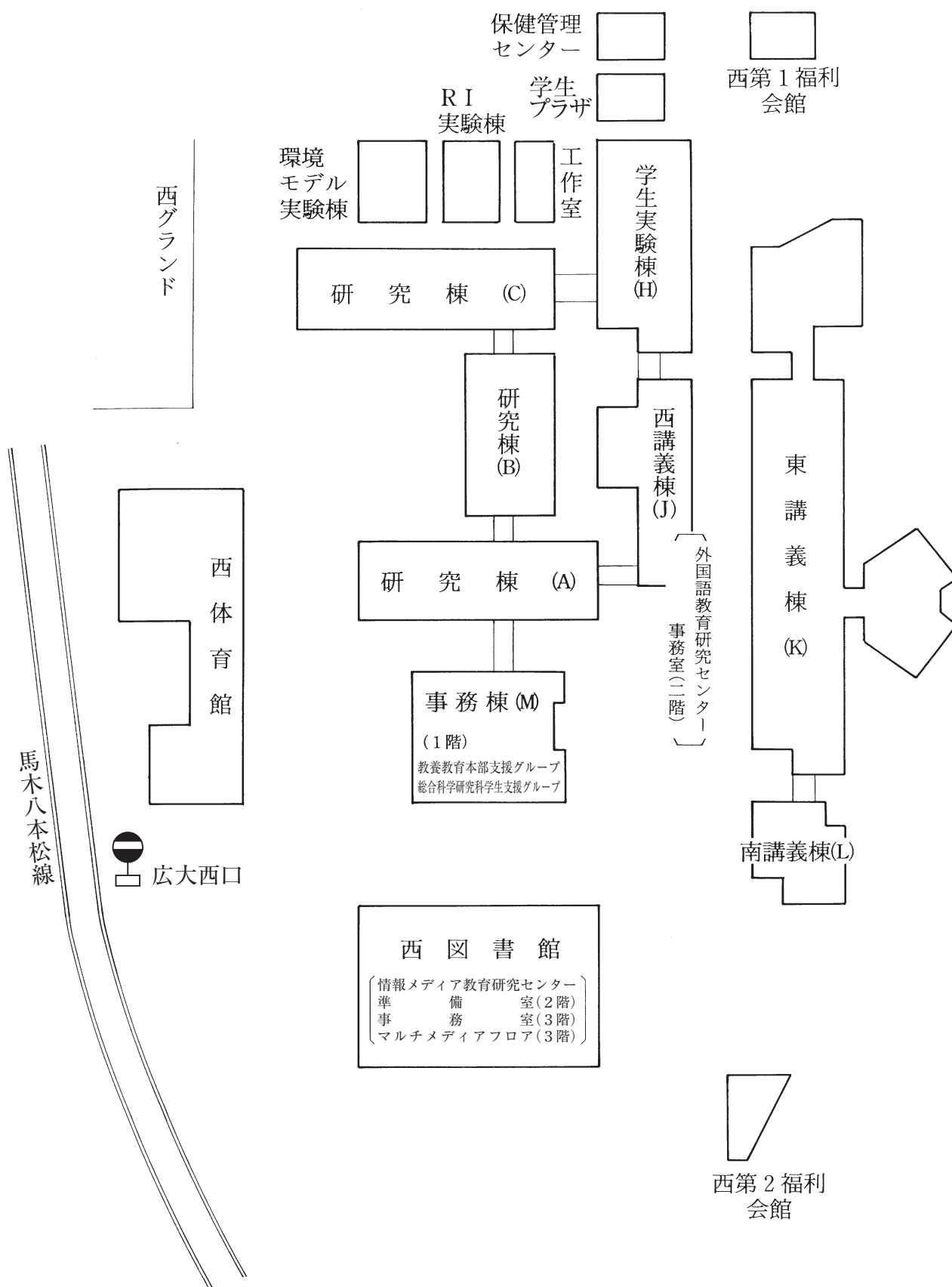
- ① この取扱いは、平成23年度入学生から適用する。
- ② 平成22年度以前に入学した学生の外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについては、この取扱いの規定にかかわらず、なお従前の例による。

VII. 配置図等

1. 東広島キャンパス配置図

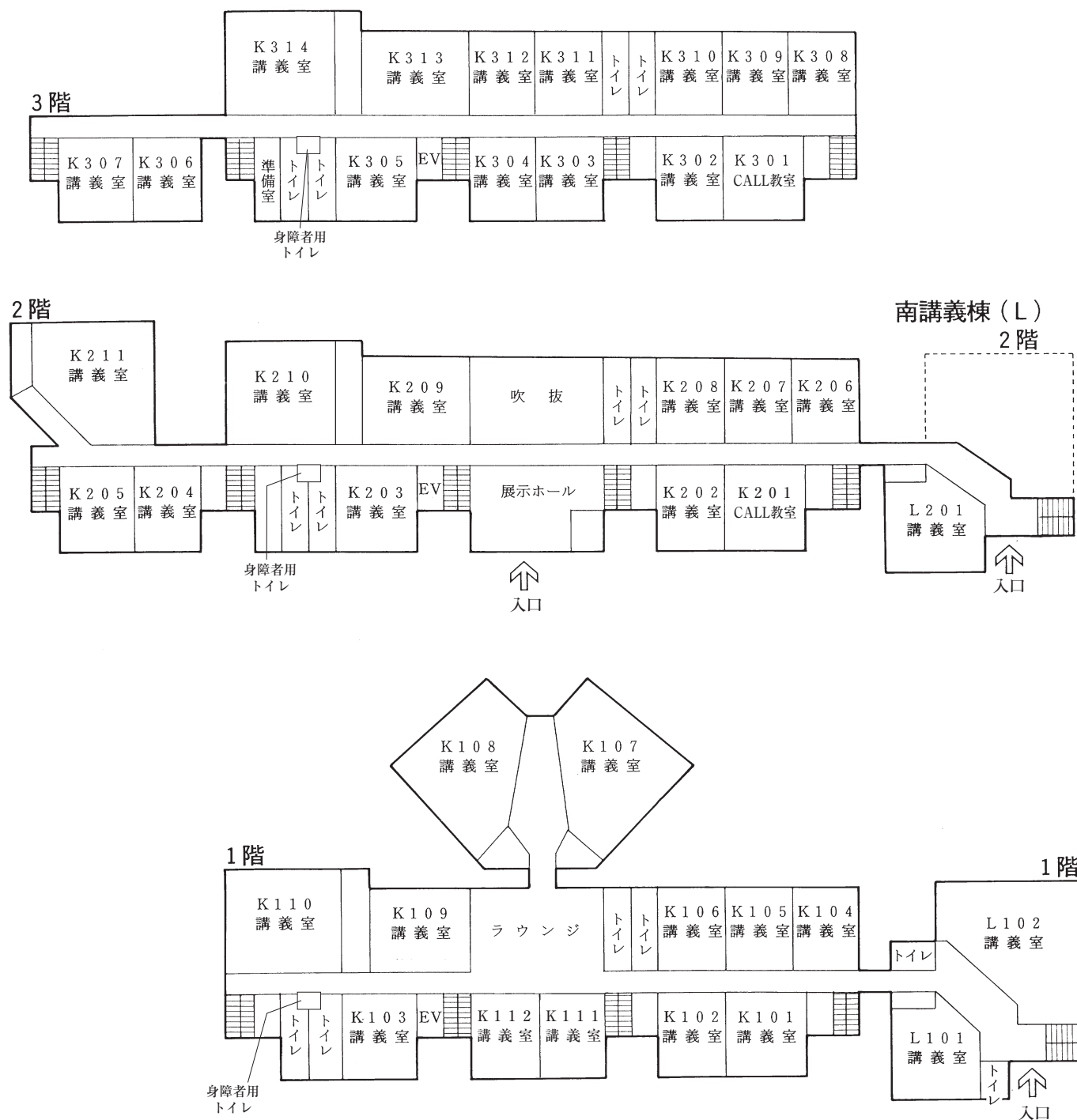


2. 総合科学部付近配置図



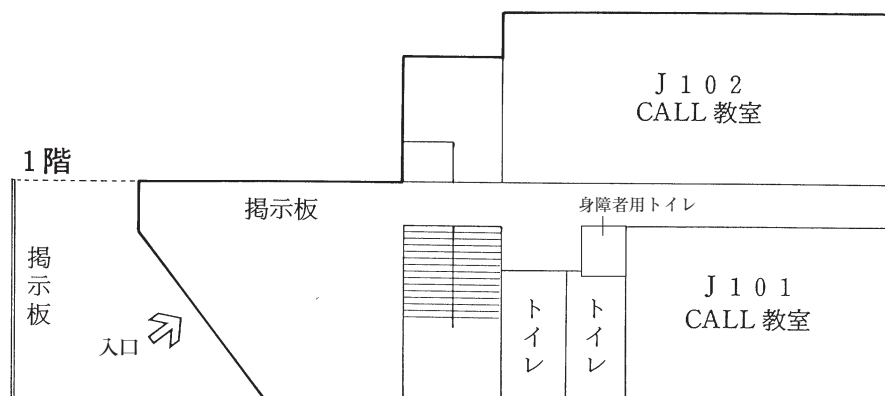
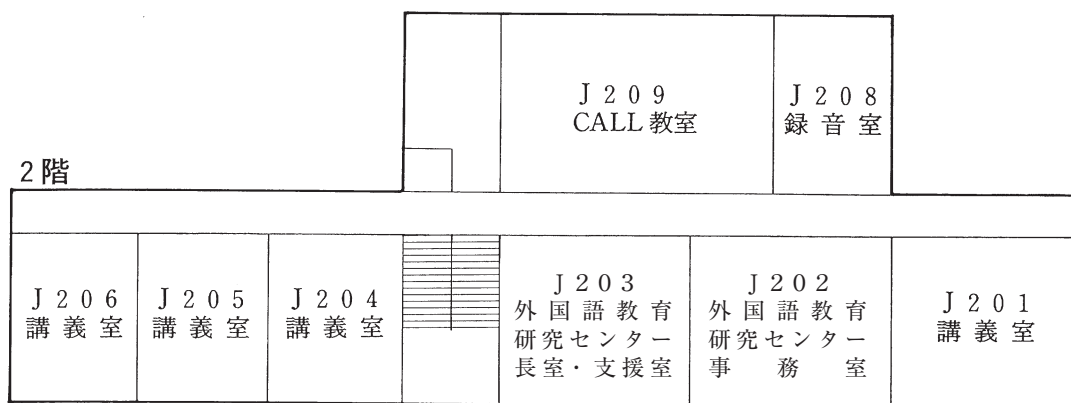
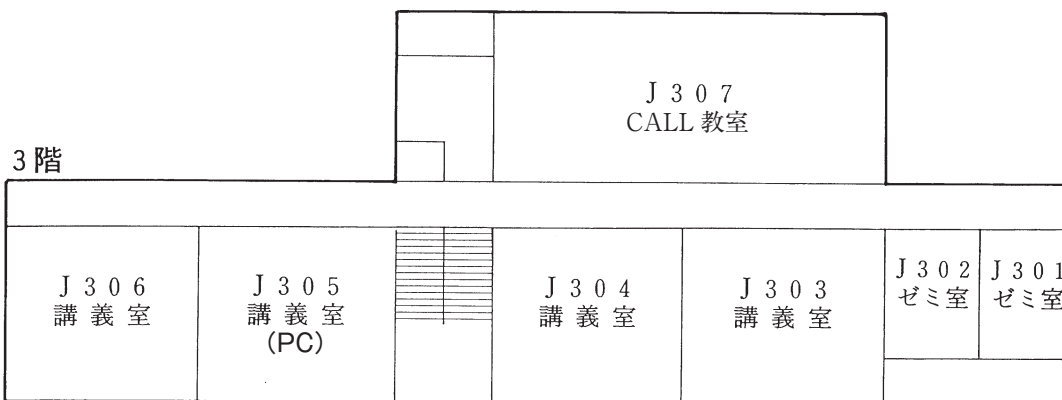
3. 総合科学部講義室配置図

東講義棟 (K)



EV…エレベーター

西講義棟（J）



学生実験棟 (H)

3 階

トイレ	H307 大学院 先端 設備 室	H306 大学院 先端 設備 室	H305 化学準備室	H304 化学実験室Ⅰ
トイレ				
H303 ドラフト 室	H302 化学実験室Ⅱ			H301 化学実験室Ⅲ

2 階

トイレ	H210 地学標本室	H209 地学準備室	H208 地学薄片室	H207 地学機械室	H205 生物学標本室	H204 生物学実験室Ⅰ
トイレ						
	H211 高等教育ユニバーサルデザイン化プロジェクト推進室	H206 地学実験室		H203 生物学飼育室	H202 生物学準備室	H201 生物学実験室Ⅱ

1 階

トイレ		H108 物理学実験室Ⅰ	H107 分光実験室	H106 物理学実験室Ⅲ	H105 レーザー 実験室
トイレ					

	H110 ゼミ室Ⅱ	H109 ゼミ室Ⅰ	H104 物理学実験室Ⅱ	H103 物理学 準備室Ⅰ	H102 物理学実験室Ⅳ	H101 計算機 実験室

地階

HB 06
物理学準備室 II

トイレ

トイ レ

HB 04
物理暗室

HB 03
X線実験室
標準 準備 室

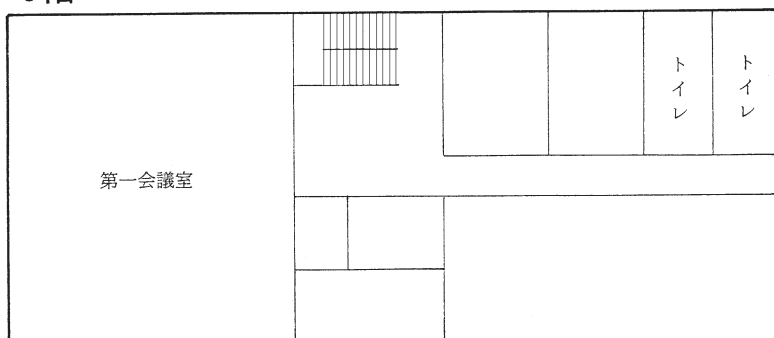
HB 02
比電荷
実験室

HB 01
万有引力
実験室

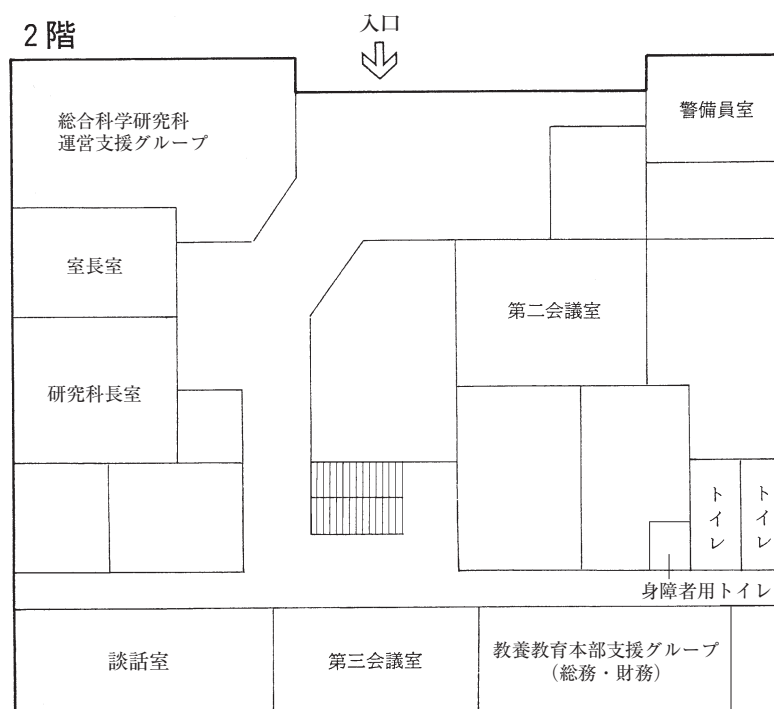
入口

事務棟 (M)

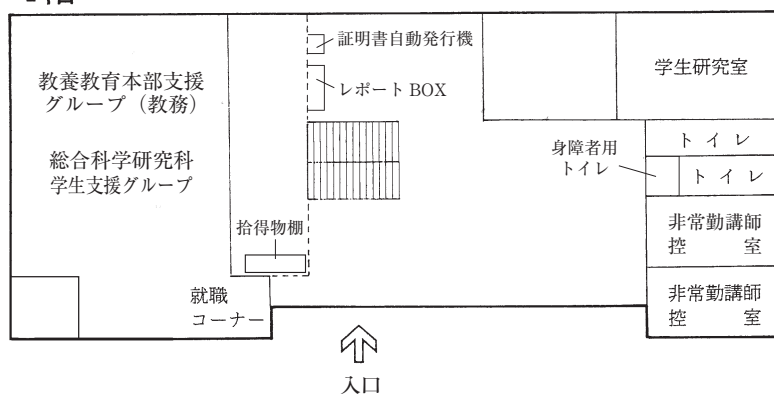
3階



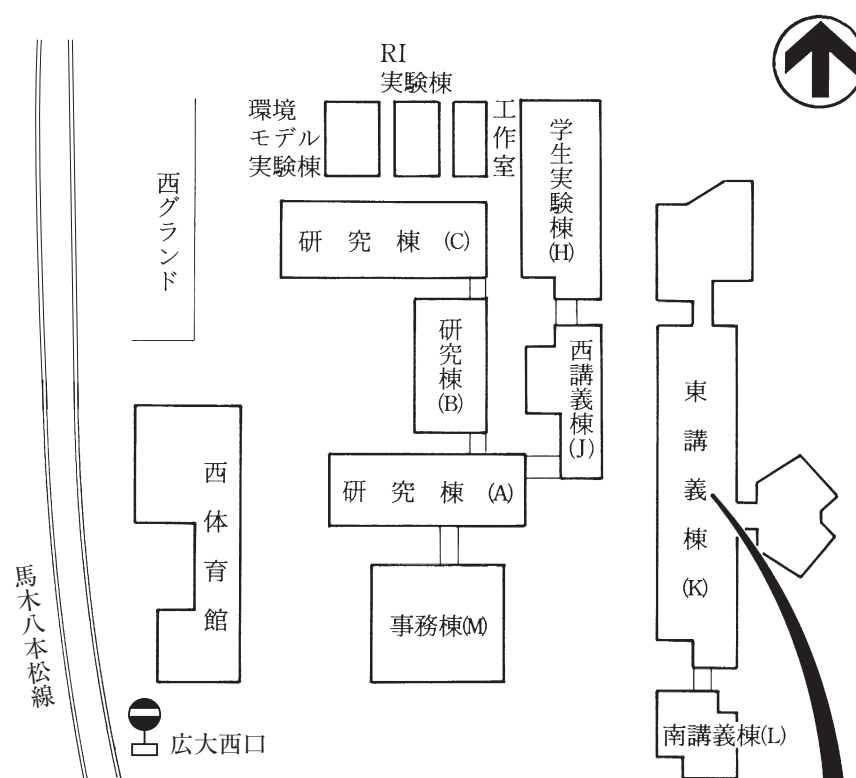
2階



1階



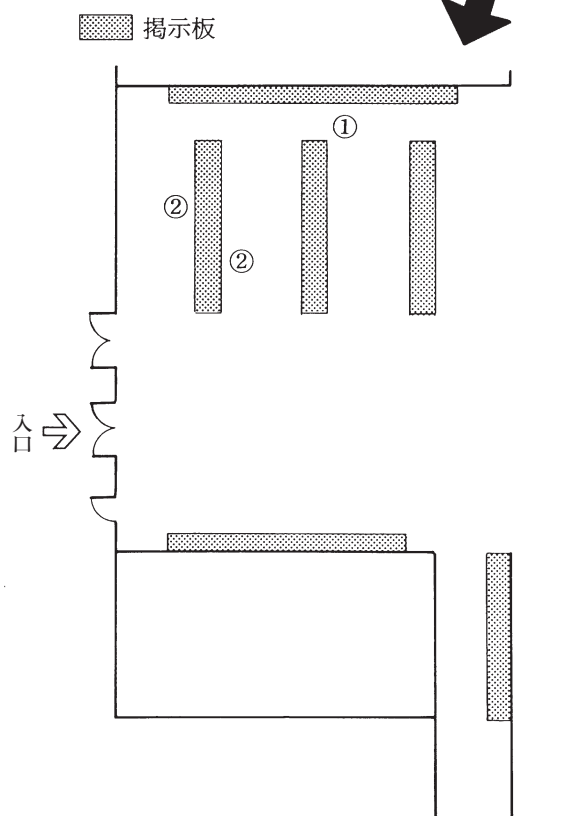
4. 教養教育に関する掲示板位置図（東広島キャンパス）



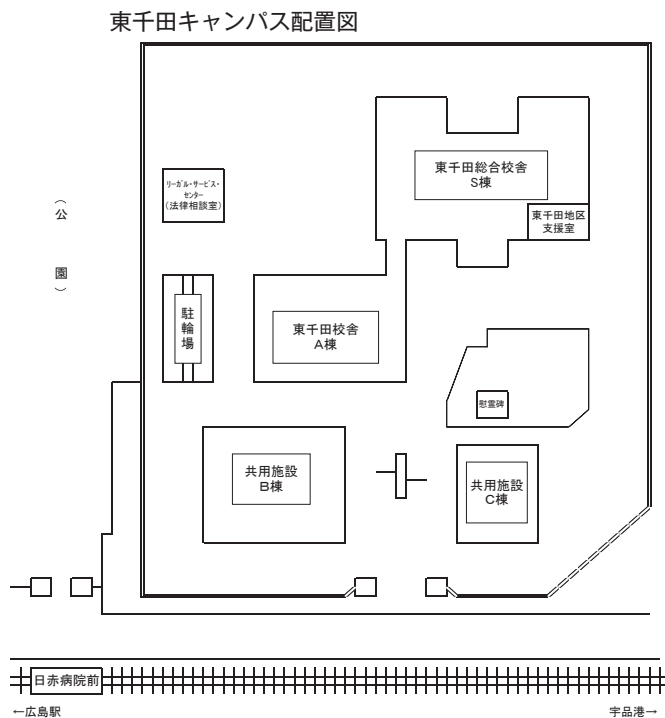
掲示板（東講義棟(K) 2階）拡大図

- ① 一般情報
- ② 講義情報

※なお、教養教育科目の休講・補講・期末試験日程等の講義情報は、掲示ではなく「My もみじ」で通知します。
詳しくは p. 教養25「学生情報の森もみじについて」をご覧ください。



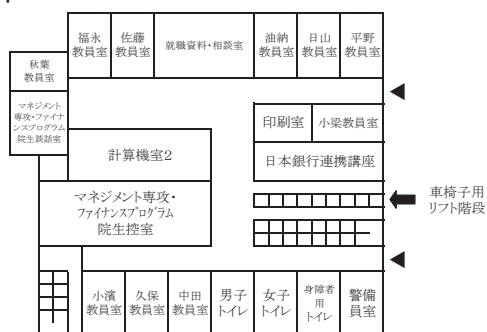
5. 東千田キャンパス配置図



東千田地区共用施設

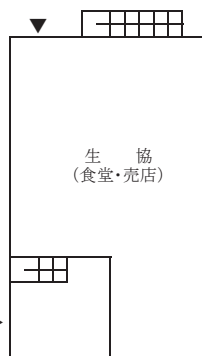
B棟

1F

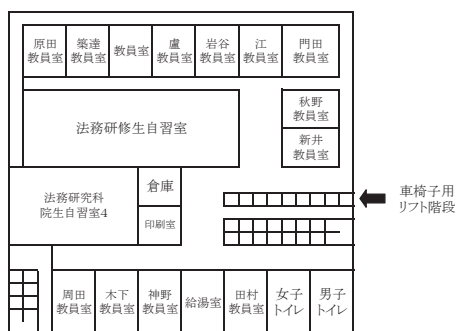


C棟

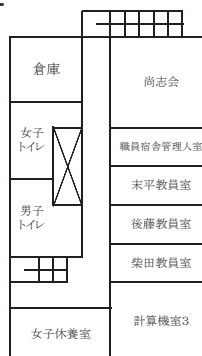
1F



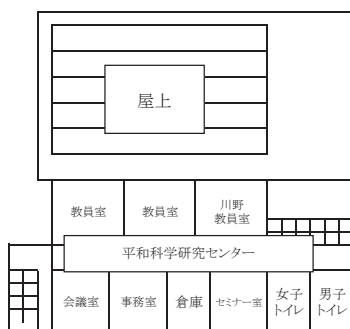
2F



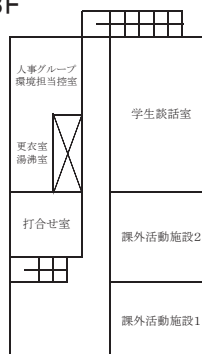
2F



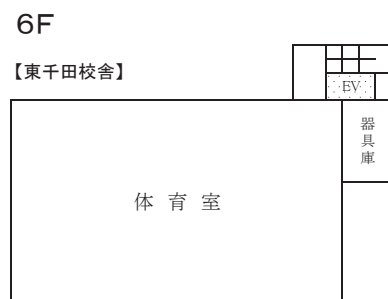
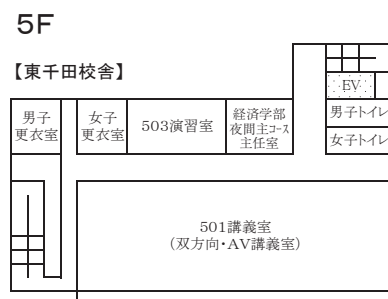
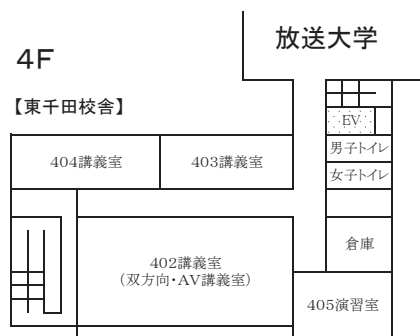
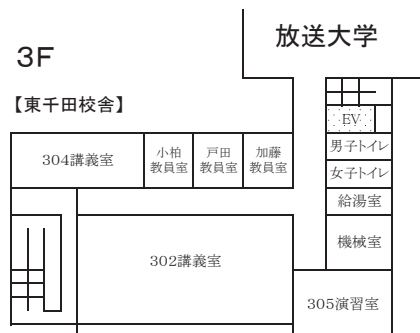
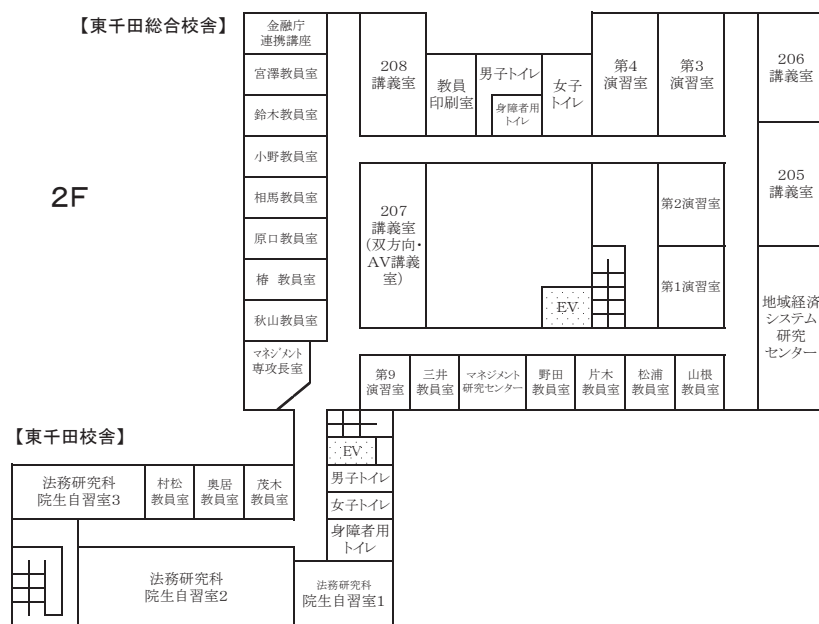
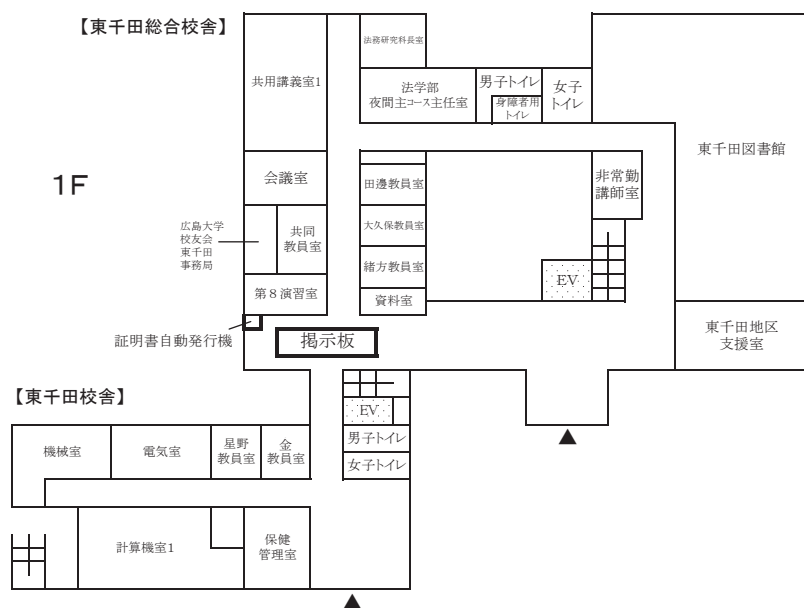
3F



3F



東千田総合校舎・東千田校舎（S棟・A棟）



6. 各学部学生支援グループ等の連絡先・E-mail アドレス

各学部学生支援グループの連絡先は下表のとおりです。

教養教育科目の履修に関する質問・相談は、教養教育本部支援グループで受け付けています。(東千田キャンパスで開講する科目は、東千田地区学生支援グループに相談してください。)

なお、所属学部が定める履修基準表などに関する質問・相談については、所属学部の学生支援グループに相談してください。

また、E-mail を送る時には、必ず学生番号と名前を書いてください。

東広島キャンパス（東広島市）

受付時間：（月～金） 8 時30分～17時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
総合科学部	総合科学研究科 学生支援グループ	082-424-6315	souka-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
文学部	文学研究科 学生支援グループ	082-424-6613	bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
教育学部	教育学研究科 学生支援グループ	082-424-6715	kyoiku-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
法学部 昼間コース	社会科学部 学生支援グループ	082-424-7215	syakai-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
経済学部 昼間コース		082-424-7217	
理学部	理学研究科 学生支援グループ	082-424-7315	ri-gaku-gakusi@office.hiroshima-u.ac.jp
工学部	工学研究科 学生支援グループ	082-424-7524	kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp
生物生産学部	生物圏科学研究科 学生支援グループ	082-424-7915	sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
教養教育本部支援グループ		082-424-6153	gsyugaku-group@office.hiroshima-u.ac.jp

※教養教育本部支援グループは総合科学部事務棟 1 階（場所は p. 教養47参照）にあります。

霞キャンパス（広島市）

受付時間：（月～金） 8 時30分～17時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
医学部	医歯薬保健学研究科等 学生支援グループ	082-257-5049	bimes-gaku@office.hiroshima-u.ac.jp
歯学部		082-257-5613	
薬学部		082-257-5777	

東千田キャンパス（広島市）

受付時間：（月～金） 12時30分～21時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
法学部 夜間主コース	東千田地区 学生支援グループ	082-542-6998	senda-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
経済学部 夜間主コース		082-542-6961	